263.3-5口
1200501352860
3.3
5口

始

今村順子著

三訂

裁縫教授法

東京 目黒書店
成美堂 合梓

明治
45. 2. 19
内交

三訂の辭

曩に本書を著してより既に十有四年、其の間社會の進運に伴ひ、自己の經驗に照し、法令の改正に徴して屢、增補訂正し以て讀者講習の便に供せしが、爾後更に高等女學校令及小學校令施行規則等の新に制定せられたるもの、又は一部の改正せられたるものあるを以て、今茲に之を修補して上梓することゝせり。

明治四十五年二月

著者識す

再訂の辭

本書を著してより既に十星霜を經、版を重ぬること三十二回に及べり。其の間、時勢の進運に鑑み、自己の經驗に照し、曩に大に修正を加へて讀者の好意に背かざらんことを勤めたりき。然るに頃者小學校令の改正せらるるや、裁縫を以て女兒に對する國民教科の一つに加へられ、益、重きを本科教授に置かるるに當り、此の書亦從つて訂正するの必要を生じたり。因りて、更に增補修正して、該令の趣旨に副はんことを期すと云爾。

明治四十一年七月

著者識す

裁縫教授法

緒言

本書は、著者が昨年東京府教育會の開設にかかる夏期講習會の講師を依囑せられたる際、講述せしものに、多少の取捨增減を加へたるものなり。素より世に公にせんとの意にはあらざりしも、現今本科教授の改良を切望するの折柄として、各地の教育者より、上梓を促さるること切なれば、淺學拙技をも顧みず、此度書き綴りて出版

することとせり。若し本書にして、女子師範學校、竝に裁縫科教員たらんことを望む人々の教科書、若くは參考書に充てらるるを得ば、著者の光榮何ぞ之れに若かん。

明治三十二年二月

著者識す

三訂 裁縫教授法

目次

第一章　總論……一
　第一節　教育及教授……二
　第二節　普通教育に於ける諸教科……四
第二章　裁縫の意義……六
第三章　裁縫教授の沿革……八
　第一節　衣服の沿革……八
　第二節　維新前の裁縫教授……一一
　第三節　學制發布後に於ける裁縫教授……一二

第四節　外國に於ける本科教授の沿革……一四
第四章　裁縫科の教育的價値……一七
第五章　裁縫教授の目的……二二
第六章　裁縫教授の材料……二四
第七章　裁縫科と他教科との關係……二六
第八章　一般教授の原則……二九
第九章　裁縫教授の方法……三二
第一節　一齊教授……三二
第二節　教授の順序……三七
第三節　教授の段階……四一
第四節　材料品……四四

第十章　裁縫科教授細目……四六
第一節　單式教授細目例……四九
第二節　複式教授細目例……七二
第十一章　裁縫科教授案……七七
第一節　單式教授案例……八〇
第二節　複式教授案例……一〇三
第十二章　裁縫教授上の注意……一〇七
第十三章　裁縫教授に要する設備……一一二
第一節　教室……一一二
第二節　教具……一一四

附錄
一　高等女學校及び實科高等女學校裁縫科教授要目
二　女子師範學校裁縫科教授要目
三　中等教員裁縫科檢定試驗問題
四　中等教員手藝科檢定試驗問題

目次終

三訂裁縫教授法

今村順子著

第一章　總論

普通教育に於ける裁縫科の目的

裁縫は一種の技術なり。然らば裁縫の教授はただ其の技術に習熟せしむるのみを以て足れりとするか。あらず、單に裁縫を以て職業とせん人を養成すべき技術專門の學校にては、それにても事足りぬべしといへども、普通教育に於て課する裁縫科の目的は、決してさる單一のものにあらざるなり。すなはち、普通教育に於ける裁縫科は、生活に須要なる技能を授くるを主とするものなれども、兒女心身の發育に意を留め、他の諸學科と相聯絡し、相補佐して、教育の

裁縫教授者の心得べき件

成効を期し、中にも德性の涵養に至りては、特に注意して教授すべきものなるがごとし。されば普通教育における裁縫の教授に當らん人は、その技術に堪能にして、その教授に長ずるのみならず、なほ普通教育の本旨はいづくにあるか、普通教育に於て課する諸教科は、如何なる意味にて選定せられしものなるかを、豫て心得おかんこと最も必要なりとす。よりて、まづ、それ等の概要を左に列擧すべし。

第一節　教育及教授

教育の目的

教育とは、既に成熟したる人が、心身共に未だ成熟せざる人に對して、完全なる發育卽ち獨立自裁の力を得しめんが爲めに、施す所の有意の作用なり。此の目的を達せんには、秩序ある教授の方法によらざるべからず。教授に二種あり、教育的教授、非教育的教授これなり。非教育的教授とは、單に特殊の知識、若くは技能を傳達するのみを目的とする教授の謂にして、教育的教授とは、その目的これにとどまらで、身體及び心意諸作用の發達に留意し、品性を陶冶せんことを務むるものをいふ。普通教育における教授は、いふまでもなく教育的教授に屬すべきものなり。

非教育的教授

教育的教授

小學校の本旨

現行小學校令第一條に於て、

小學校ハ、兒童身體ノ發達ニ留意シテ、道德教育及國民教育ノ基礎、竝其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス。

と規定せられたり。されば何れの教科を教授するに當りても、能く本令の趣旨を體して、其の目的を誤らざらんことを要す。

第二節　普通教育に於ける諸教科

前條に述べたる教育の目的を達するには、之れに須要なる學科の選定を要するものなり。故に我が國現行の小學校令に於ては、兒童に課すべき教科目を、左の如く定められたり。

尋常小學校の教科目

尋常小學校ノ教科目ハ修身・國語・算術・日本歴史・地理・理科・圖畫・唱歌・體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

高等小學校の教科目

土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

高等小學校ノ教科目ハ修身・國語・算術・日本歴史・地理・理科・圖畫・唱歌・體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

前項教科目ノ外手工・農業・商業ノ一科目又ハ數科目ヲ加フ其ノ數科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ兒童ニハ其ノ一

各教科目の性質

科目ヲ課スルモノトス

以上の諸教科は、各固有の性質及び價値を有し、或は主に道德教育及び國民教育の基礎を作るに適するものあり、或は主として身體の育成を目的とするものあり、或は生活に必須なる智識・技能等の修養に資するものあり。然れども各教科中には、その性質上自然に相類似するもの、相關聯するもの少からざるを以て、是等の各教科互に相補益して、教授の成効を圖るべきものとす。故に小學校令施行規則第一條にも

各教科目ノ教授ハ、其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク、互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス。

と示されたり。

裁縫の意義
狹義の解釋
廣義の解釋

第二章　裁縫の意義

裁縫とは、普通の意義にて解釋すれば、衣服の裁ち方、縫ひ方と云ふことなれども、小學校に於て授くべき裁縫科は、啻に此の二者のみに止まらずして、衣被料の品類・性質及び衣類の保存・洗濯等、すべて衣服に關する普通の知識・技能を授くる等のことをも、本科中に包含せしむべきものとす。

裁縫科の要旨

小學校令施行規則第十一條に曰く、

裁縫ハ、通常ノ衣類ノ縫ヒ方、及裁チ方等ニ習熟セシメ、兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス。

尋常小學校ニ於テハ、運針法ヨリ始メ、漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ、又便宜裁チ方、繕ヒ方等ヲ授クベシ。

高等小學校ニ於テハ、初ハ前項ニ準シ、漸ク其ノ程度ヲ進メ、通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方ヲ授クベシ。

裁縫ハ、其ノ材料ヲ日常所用ノモノニ取リ、之ヲ授クル際、用具ノ使用方、材料ノ品類・性質及衣類ノ保存方、洗濯方等ヲ教示スベシ。

蓋し人は、天性と習慣とによりて、男女各、其の執るところの務を異にするものにして、裁縫は女子の生活上に於て最も必要なるものなれば、特に普通教育の教科に加へられたるなり。されば之れが教授に於ても、啻に裁ち縫ひの業を傳ふるのみならず、將來一家を經營する上に於て、本科に關係あるところの必要なる知識・技能をも合せ授けて、能く其の本分を盡さしむることこそ、本令の趣旨に適ひたるものと云ふべけれ。

第三章　裁縫教授の沿革

第一節　衣服の沿革

裁縫教授の沿革は、衣服の沿革と、密接の關係を有するが故に、之れを述ぶるに當りては、勢ひ、服裝の變遷の一端をも合せ説かざるべからず。左にその梗概を擧ぐべし。

服裝の變遷

太古

衣服は食物・住居と並びて人生に缺くべからざるものにして、太古穴居の時代に於てすら、なほ必要のものとして之れを纏へり。而してその調製は、早くより婦人の專業たりしが如し。古史に皇祖天照大御神の、繭を含みて糸を取り、機織る業を始め給へること、又栲機千々姫ノ命・天ノ棚機姫ノ命等、皆斯道に妙を得させ給へることなど見ゆるにても、當時既に織業の術行はれしことは明かなり。而して是等衣服の

原料は、絹を用ふるもありしかど、こは多く高貴の人々に止まり、一般には麻・楮等の纖維をもて織りたるを用ひたりき。

三韓服屬後

韓地服屬の後は、彼國より織縫の手人等を召され、又歸化したる人々もありて、大にこの術の發達を助けたり。されば織物にては、錦・綾等の精巧なるものを出し、裁縫術に於ては、神代より用ひ來りし袖搾き衣、裾細き袴の外に「から衣」と云ふが出來たりしなり。

奈良平安時代

奈良・平安の時代に至りては、染織・縫衣の術、益〻進み、且つ服制も大に整ひて、禮服・朝服・制服の別を立てられ、宮中に織部司・縫殿寮を置かれて、染物・織物・裁縫等の事を掌らしめられたり。

又身分によりて、服制も定まれり。縫腋・闕腋・直衣・指貫・狩衣・直垂・水干・内著・緋袴・單・五衣・打衣・表著・唐衣・裳等の如き、複雜

なる仕立の衣服は、大概この時代に始まりしものなり。

鎌倉時代

鎌倉時代にありては、貴紳の服裝は前代と大差なかりしも、その初め、頼朝の幕政を執るや、大に華美の風を戒め、北條氏相續きてこの風を守りしを以て、一般に質素を旨とし、中間・小者などは、布四幅にて作れる短き袴に、脛巾を纏ひ居たりとぞ。

室町時代

降りて、室町時代に至りては、次第に驕奢に赴き、衣服の材料も、華美なるものを用ひたりしも、當時、世の中亂れて、戰爭絶へ間なかりしを以て、一般の服裝は、自然簡畧を尚び、羽織・十徳・肩衣・搔取等は、皆この時代に於て出來たるものなり。

德川時代

德川時代に至りては、泰平久しく打ちつづき、美術・工業等痛く進歩したりしを以て、裁縫・刺繍等の術、亦精巧を極むるに至れり。殊に元祿以後にありては、概して華美の風をなし、女子の衣服にも、家紋をつけ、袖も長くなりて、一尺四五寸となり、帶の幅も廣くなりて、半幅のものを用ふるに至れり。

維新前の裁縫教授

第二節　維新前の裁縫教授

衣服の仕立複雜となれるに從ひ、これを職業とする仕立屋等も出來たれども、また我國古來よりの女子教育の方針は、女子は內にありて、家事を整理し、舅姑に仕へ、夫に順ふを以て、第一の要義となしたれば、これに直接關係を有する衣服の調製等は、身分の高下にかかはらず、必ず、學ばざるべからざるものとせり。されど、今日の如く、之れを教授すべき學校等の設あるにあらざれば、唯僅かに家庭に於て、その教を受くるに止れり。稀には仕立屋或は裁縫師匠等につきて、學ぶものありしと雖も、その教授たるや、全く個別教授に

して、唯機械的の示例と模倣とを主とし、多年練習の結果、漸くにしてその術を了得し得るに過ぎざりしなり。

又此の時代に於ては、之れを專業とする人と雖も、家傳、祕法として、容易に技術の蘊奥を一般に傳ふるを好まず、隨つて本科に關する著書等の見るべきもの殆んど稀れなり。

維新後の女子教育

第三節　學制發布後に於ける裁縫教授

維新前に於ける女子の教育は、一般に其の程度甚低きものなりしかど、裁縫は女子の最も必要なるものとして、これを收得するに、幾多の年月を費したることは、前に述べたるがごとくなりしが、明治五年學制の發布せらるるに當り、我國に於ける教育の方針、大にその面目を改め、女子も從來の如く、專ら裁縫のみを修むるにあらずして、男子と共に諸種の學藝・技術を學ばざるべからざることとなり、學制中に「女兒小學ハ尋常小學教科ノ外ニ女子ノ手藝ヲ教フ」。といへる一章を制定せられたり。是れ古來よりの習慣を重んじ、女兒小學に於ては、特にこれを加へられたるものなれども、當時は女兒の就學も、極めて少かりしを以て、實際に於ては、この科を設くるもの甚稀なりしが、明治十四年、文部省に於て、小學校教則綱領を制定せられ、從來の教則に、諸種の改正を加へらるるに及びて、裁縫科は正科目の中に置かれて、女生徒必修のものとなれり。其の後屢教則その他の改正ありて、其の程度及び教授時間等に多少の變更なきにしもあらざりしかど、裁縫科を女兒必須の教科目たらしむるに於ては、益、其の方針を確立せられて、以て、現今に至れり。

裁縫科を必須科とす

この他、高等女學校・女子師範學校等に於ても、裁縫を以て、

裁縫科の現況

重要の教科となし、その教授時間數の如きも、各教科目中最も多きを配當せられたり。

尙ほ最近數年間にありては、我國時勢の變遷竝に物質的開化の要求により、各地に技藝學校の設立せらるるもの甚多く、隨つて從來の如く、啻に齊家の用に資せんとするもののみならず、專ら職業的或は專門的に、之れを修むるものも少からざるに至れり。

されば、本科の教授は近來一般に長足の進歩をなし、その成績大に見るべきものあるに至れり。

第四節　外國に於ける本科教授の沿革

歐米諸國の普通教育に於ける本科の狀態を見るに、從來はこの科の設あらざりしが、前世期の終りごろより、大に其の必要を認められ、多くはこれを加ふることとなれり。

歐米に於ける裁縫科の沿革

今ハイルマン氏の著されたる教授學によりて、普國に於ける女子手工科(編物及び衣服の繕ひ方、縫ひ方、裁ち方)の教授に關する一斑を述べんに、彼の國に於ては、女兒の手工は、早き時代に於て、既に家庭に行はれたるものなり、母はその娘と下婢とに對して、常にこの教授を怠らざりき。されど、中世紀にありては、この風稍、頽れたるが爲め、家庭以外に之れが補助を求むるの必要を生じたり。斯くて十六世紀に至り、所謂編物學校なるもの設置せられ、女兒に對して必要なる裁縫を授くることとなれり。併し此の種の學校は、當時存在したる公立の學校とは連絡を保たざりき。

斯くて女子の手工の甚大切なることは、一般に認められ、普通の女兒學校に在りても、これを課することとなれり。

然るに十七世紀の擾亂時代に至り、この有望なる施設は、全く破却し去らるるに至りしが、降りて十八世期の終りごろ、再び手工學校、卽ち所謂工業學校 Industie-Schule を設くるに至れり。而して此の種の學校に於て、多くの女兒は、活動の趣味、及び、家事に對する教育を受けたり。されど其の教授法は、甚不完全なるものにして、機械的にこれが模倣を勉めしめ、唯十分に練習せしむるを以て目的とせり。この種の學校は、各地方に傳播して、遂に女兒の手工は、總べての女兒學校に於ても教授することとなりたり。

此の如く、女子手工科は、一般の學校に於て教授せられ、且つ他の教科と同樣に配置せられて、女兒の教育に對し、有効なる教科たることの一般に認知せらるるに至り、手工學校は變じて、教育的の學校とならざるべからざるの結果を生

じたり。然れども、一般の學校に女子手工科を入るるにつきては、政府は、絶へず此の科の價値を指示するにも係らず、尙ほ多くの反對を見出したり。千八百三十年に至り、政府は既に女子手工科の一般の學校に屬すべきものなることを示し、其の結果として、初めに高等女學校に於て之れを授け、次に小學校に於てこれを授くるに至れり。

プロシアに於ては、千八百七十二年八月十五日に發した一般教育令により、始めて女子手工科を必須科目となすに至れり。

第四章　裁縫科の教育的價値

裁縫は女子の生活上最も必要なる實際的の技能なるのみならず、その教育的價値は尙ほ他に多く存するものなり。

裁縫の教育的價値

左に主なる條項を擧げん。

一、忍耐の氣象を養ひ緻密の思想を練る。

何事にても忍耐・勤勉せざれば、その成効を見る能はざれども、殊に裁縫科の如き、一枚の衣服を仕立つるにも、恒久の忍耐と、緻密の思想とを要するにあらざれば、その結果を見る能はざるのみならず、巧拙精粗の、まのあたり製作物に現はるるものは、自然是等諸性の必要を自覺するが故に、その修德上の價値は、大に他學科に優るものあり。

二、觀察思考の力を增す。

總べて、技術に屬するものは、單に理法を了解せしむるを以て足れりとせず、必ずや十分之れを觀察して、その技の妙味を領得せしめ、これが模倣に勉めしめざるべからず。これ大に觀察力を增進する所以にして、尙ほ進みて、自ら考案し、自ら工夫し、以てその上達を圖らんと欲するの念をも生ずるに至るものなり。而して此の念慮は、敎養宜しきを得ば、獨り思考力の修練に資するのみならず、自治・自動の氣象を皷舞する上にも、少からざる、効あるものとす。

三、美感を養成す。

裁縫は、その技能の美術的たるのみならず、常に取り扱ふ處の材料品の如きも、皆この思想を以て選ばれたるものなるが故に、直接間接に、大に審美的情操の發達を助くるものなり。

四、秩序・清潔・整頓等の良習を養ふ。

裁縫用具、及び材料品の取り扱ひ方、その整理竝に洗濯・保存等に關する事項は、何れも之れを實地に行はしむるを

以て、其の間常に秩序・清潔・整頓等の良習を養ふに適切なる機會多く、隨つて是等の諸德を得しむるには、この科を以て最も効果多きものとす。

五、節約・利用の習慣を得しむ。

裁縫の教授は、常に新しきものの裁ち縫ひのみを授くるにあらずして、古きものの繕ひ方、及び其の利用の方法、例へば、破れたる衣服の胴を袖に切り換へ、大人物を子供物に直し、或は羽織を著物に仕立換ふる等のことより、小切・糸屑等の類に至るまで、妄りに捨つることなく、常にこれを保存して、必要なる場合に用ひしむること、又は色の褪せたるを、簡單に色揚げして、再び使用に耐へしむる等の事を實習せしむるものなるが故に、隨つて是等の良習を得しむる上に、大に裨益あるものとす。

この他、勤勞を賤まざる習慣を養ひて、社會的階級の調和をはかり、又衣服の仕立方に於て、先づ各種の縫ひ方、及び部分縫等を教授し、然る後、全體を完成せしむるによりて、吾人の事業は、常に小目的より入り、これを達したる後、大目的に入るの順序なりとの理を、具體的に知らしむるを得べし。

又眼を練習し、手の筋肉をして精確・敏活なる運動に慣れしめて、身體上の機巧を得しめ、殊に女子の處世上、最も大切なる實用的技能を與へ、尙ほ他日專門的、及び職業的に、此の技能を習得するを必要とする時の礎地を作る。

以上述べたる如く、本科は女子の教育上、その實質的及び形式的の價値頗る大なるものにして、婦人は實に是等の諸性を備ふるが故に、能く齊家の任に當り、複雜なる家事萬端を整理するを得るものなり。　またこの科の特質として、授

けたる事項は、總べて之れを實現せしめ、且つ教師は兒童各自に接觸すること多きを以て、隨つて其の個性を認識し得るの機會少からず。抑、教育者が、常に兒童の性情を觀察し、その相違によりて斟酌を加へ、各、適當なる教育を施さんは最も大切なることにして、眞に有効なる結果を奏するを得べきものなり。而して本科は、最もよく、兒童各個の性情を觀察するに適するものたり。

第五章　裁縫教授の目的

普通教育に於ける裁縫の意義、前に述べたるが如くなるを以て、その教授の目的も亦之れによりて定むることを得べし。

裁縫は、通常衣服の裁ち方、縫ひ方に習熟せしめて、生活上

必須なる實用的の技能を授け、兼ねて衣被料に關する衞生・經濟等の思想を與へ、且つ審美的感情を養ひ、綿密・清潔・整頓・勤勉等の良習を得しめ、節約・利用の法に慣れしむるを以て目的とす。

世には、裁縫の教授は、衣服の裁ち方、縫ひ方をのみ收得せしむるれば十分なりと思惟するものなきにあらず、されど、衣服に關して、女子の知得せざるべからざることは、啻にこの二者のみにあらざれば、前に述べしが如き、諸種の事項を授けて、將來の生活に便ならしむると共に、又之れによりて心的陶冶をなすことも、本科教授の一要素なりとす。

而して、その主要の目的たる裁ち方、縫ひ方は、正確にして且つ精巧迅速になさしむる樣勉めざるべからず。何と

なれば、巧みに仕立上げたる衣服は、その品位を高め、速かに製作することは、實用上大に便利なればなり。されど是等の目的を同時に達することは、固よりよくし得べきにあらざれば、最初は先づ正確を主とし、次に精巧、次に迅速と、一歩一歩に進みて、次第に、その要求に添はしめんことを期すべし。

裁縫教授材料の選擇

第六章　裁縫教授の材料

教授の目的を達せんには、之れに用ふる材料を要す。裁縫教授に要する材料は、兒女の心身發育の度に應じて、生活上必須なるものを選擇せざるべからず。今その大要を擧ぐれば、運針練習を始めとして、襦袢の各種類より、大小男女の單衣・袷・綿入・帶・羽織等の裁ち方、積り方、縫ひ方に習熟せしめ、兼ねて服地の種類・性質・產地、衣類の保存、洗濯の方法等を教示するを以て足れりとす。たとへ應用に屬するものなりとも、啻に兒女の意向に任せ、漫りに新規なるものを課すべからず。抑兒童の好奇心は、智力發達の上に於て至大の價値を有するものなれば、妄りにこれを抑壓すべからざることなれども、本科の如き、直接實用を主とする教科にして、且つ一定の秩序を履まざれば、其の目的を達する能はざるものにありては、まづ日常必須なるものを授くるを以て、專一となさざるべからざるなり。

材料過多の弊

然るに裁縫は、女子の技能中最も大切なる業なるを以て、動もすれば、普通教育に於ても、多量の教材を課して、其の負擔を重からしむるの弊あり。是れ教育の本旨に戻れるものと云はざるべからず。何れの學科にても、教材の多きに

過ぐるは、却て兒童の薄弱なる腦漿、未熟なる手指の發達を害し、成長の後に至りて、朦朧たる知識、不熟なる技能を得しむるに止まるものなり。　蓋し教材が修養の効を奏するは、其の分量の多きにあらずして、その授けたるところを精確に收得せしめ、これを反覆練習して運用自在ならしむるにあり。　殊に本科の如きは、一教材の教授に於ても、往々數時間或は數十時間に渉るものあれば、普通教育に於ける本科の時間數より思惟するも、妄りに多量の教材を課すべからざるは、云ふまでもなきことなりとす。

第七章　裁縫科と他教科との關係

小學校の教科は、種々の教科目より成るものなれども、その間、成る可く相互の聯絡をはかりて教授すべきは、既に述べたるが如し。　然らざれば徒らに知識の斷片を注入するに止まりて、爲めに思想の統一を害するのみならず、却て心意の活動力を微弱ならしむるに至るべければなり。　而して本書説くところの裁縫科と最も密接の關係を有するものは、左の諸教科なり。

裁縫科と他教科との關係

一、修身科　裁縫は、兒女をして、實地に行はしむること多きを以て、修身科に於て教授したる諸種の德を、實踐せしむる機會多し。　例へば、衣服の縫ひ方にて綿密・忍耐等の思想を練り、洗濯・補綴又は器具の整理、糸屑・布片等の取扱ひ方によりて、清潔・整頓・節約・利用等の良習を得しめ、又その姿勢及び動作は、作法の教授に於て學習したることを、應用せしむる等の類なり。

二、算術科　衣服の調製に要する布帛の積り方、及び費用の

計算、裁ち方の工夫等をなさしむるには、專ら算術科に於て得たる知識による。殊に簡易なる積り方は、暗算にてなし得る樣練習すべし。

三、圖畫科　裁縫は、技能に屬する教科の一にして、圖畫科と略ぼその性質を等しうするが故に、特に密接の關係を有す。卽ち手指の練習を始めとして、衣服の形狀、配色の方法、及び縞柄・模樣等に關する好尙心など、いづれも相たすけて進步發達せしむべきものなり。

四、地理科　服地の名稱・產地・價格等を知らしむるには、常に地理科の教授に聯絡を保ちて、正確なる知識を與ふべし。

五、理科　衣被料の性質、洗濯・保存の方法、色物の取扱ひ方等は、理科教授に於て授けたる原理を應用して、之れを實習せしむべし。

六、手工科　諸學科中、裁縫科教授の目的に酷似せるは、手工科なり。蓋し手工科教授の目的は、簡易なる物品を製作するの能を與へ、兼ねて實業愛好の念を涵養し、勤勞を好むの習慣を得しむるにありて、特にその教授材料たる縫取・切貫・厚紙細工・結紐・編物等の諸細工に至りては、直接間接に、裁縫科の教授と關係を有すること多きを以て、能く其の連絡をはかり、互に相補益して教授すべきなり。

第八章　一般教授の原則

教授の原則は、心理學及び論理學の指示する所に從ひて、定められたるものにして、何れの教科を教授するに當りても、此の原則によらざるべからず。左にその主要なるものを摘載すべし。

教授の原則

一、教授は心理に順合すべし。

教授は、兒童の心身發達の程度を計りて、漸次に高尚ならしむべし。卽ち旣知より未知に。易より難に。簡單より複雜に。具體より虛體に。特殊より一般に及ぼす等の順序によりて教授すべきなり。

二、教授は直覺的なるべし。

完全なる知識は、主に直覺によりて得らるべきものにして、殊に裁縫科の如き技能に屬する教科は、善良なる示例によりて、兒童の直觀に訴へ、明瞭に了得して之れに模倣せしむるを以て、最も有効なる方法なりとす。

三、教授は理解し易かるべし。

如何に有益なる教材にても、兒童の理解し難きことは、効果を收むること能はずして、その教授は徒勞に屬するに至るべし。されど又餘りに易きに過ぐるものは、却て兒童の熱心を冷却せしむる恐れあるを以て、すべて教授は、兒童の心意發育の度に應じて、その理解に適せしめざるべからず。

四、教授は興味を有すべし。

興味なき教授は、兒童の注意及び熱心を惹く能はずして、其の教材、兒童の所有とならざるべし。されば興味の喚起は、教授上最も必要なることなりとす。

五、教授は自動に適せしむべし。

無爲の狀態は、倦厭を來し、不注意に陷り易きものなれば、教授は、兒童をしてなるべく多く自動せしむべし。

六、教授の効を永久ならしむべし。

一度教授したる事項は、永く兒童の腦裡に留めしめ、何時

にても、自在に活用することを得しむべし。而して明瞭に理解せしむると、適宜に反覆練習せしむるとは、此の目的を達するに就きての要件なり。

七、教授は實際的なるべし。

知識・技能は實際に活用し、將來の生活に應用することを得しむる樣教授すべし。

裁縫教授の方法

第九章　裁縫教授の方法

第一節　一齊教授

普通教育に於ける裁縫教授の方法は、他學科の教授と等しく、一齊的教授の方法によらざるべからず。是れ近來教育者の一般に認むる所にして、從來用ひ來りし個人的教授の方法は、漸次排斥せらるるに至れり。

個人的教授の得失

蓋し個人的教授は、個人天賦の特性及び鋭鈍に應じて、適切なる教授を施すことを得るが故に、少數の兒童に對しては、甚有効なる方法にして、且つ其の材料品の如きも、各兒、各別の教授たるが故に、之れを一定するの必要なく、家庭に有合せたるものに就き、教授をなすことを得る等の便あり。

然れども、小學校の組織は、多數の兒童を同時に教授するものなれば、勢ひ個人的教授を施すこと能はざるなり。今試みに、小學校に於て、個人的教授を用ふるにつきて生ずる所の弊害二三を左に記さん。

個人的教授の弊

一、管理亂れ易きこと。

個人的教授は、各兒童につき、個々別々の教材によりて教授をなすが故に、某の兒童に教授する間は、他の兒童をして空しく之れを待たしめざるべからず。然るに、兒童は、

頗る活動性に富むこと、前に云へるが如くなるを以て、かかる狀態の下に、靜肅を保ちて自動すること能はず、或は私語し、或は傍見し、教師をして管理にいとまあらざらしめ、甚しきは、教授すること能はざるに至るべし。

二、時間を空費せしむること。

前の理由により、教授は或る一部分にのみ行はるるが故に、他の兒童は何事をもなすことなくして、徒らに時間を空費するの已むを得ざるに至るなり。

三、注意力の修練を害ふこと。

教授全般に渉らざるが故に、教師は某の兒童に對しては如何に熱心に教授するも、他の兒童は、直接己れに關係なきを以て、意を之れに傾注する必要なく、遂に不注意・怠慢の弊に陷らしむに至らん。

四、秩序ある教授を施しがたきこと。

何れの教材を授與するに當りても、教授の原則に基き、之れに適合せる方法によらざるべからず。然るに、各兒童に、個々別々の教授をなすときは、如何に熟達の教師にても、到底順序正しき教授を施して、精確に收得せしむること能はずして、粗笨・漠然たる知能を得しむるのみに止まらん。

五、課程の全部に渉らしむる能はざること。

各自隨意の材料によりて、教授を受くるが故に、數回同一のものを重ぬるもの、或は全く之れを缺くものありて、日常須要のものと雖も、遂に一回の教授をだに受けずして、卒業期に至るものあるべし。

六、兒童をして自ら奮勵せしむる機會に乏しきこと。

個人に注意するの必要なること

個々別々の教材に就きて教授するときは、縱令全級の兒童一室に集合し居るも、殆んど個人的教授の如くなり、爲めに他の兒童との比較を見出すこと難きを以て、をのづから奮勵・競爭するの念乏しく、大に進歩の力を減殺するものなり。しかのみならず、其の修むるところ各異るが故に、自然と優劣の別を生じ、隨つて學校教育の目的とするところの平等・平均の力を保たしむること能はざるに至るべし。

右の理由によりて、本科の教授も、すべて一齊的ならざるべからざること明かなれども、まま個人的教授をも特別に使用するの必要あることあり。卽ち教師は、全級の兒童と對話すると同時に、又各兒童に說話する樣に爲さざるべからざることは、一般教授の理法にして、殊に本科の如き技術

裁縫教授の順序

に屬する教授は、天賦の能・不能によりて、いたく其の巧拙を異にし、中には幾たび說明するも、容易に了解し得難きものあり。されば其の教授は、一齊的に依るにもせよ、教師はたえず各兒童の能力及び技術の進否に注意して、それぞれ適宜の指導をなすことを怠るべからず。

第二節　教授の順序

本科教授の順序は、教授の原則に基き、易より難に、既知より未知に、部分より結合に及ぼさんことを要す。故にまづ用具の名稱、使用法の大略、運針・糸結び等の單一なるものより始め、順次稍複雜なる衣服の製作及び普通の服地、染色の名稱、性質・產地・用法等を知らしむるを可とす。衣服を製作せしむるには、始めより其の全部に涉らずして、まづ各部の

要所を分解教授し、之れに習熟せば、更に之れを總合して完全なるものを作らしむべし。左に各種の教材に於ける教授順序の大要を述ぶべし。

一、運針

運針は單純なる技術なれば、初歩の教授に適するは勿論なれども、本科縫ひ方の基礎をなすものなれば、稍上達の後と雖も、その練習を怠るべからず。而して最初は專ら叮嚀に其の業をなさしめ、針の持ち方、運び方等漸々熟するに至らば、一定の時間を定め、一齊に練習せしむべし。一同縫ひ終らば、素縫を除くの外は、教師一巡して其の成績を點檢・批評すべし。但し其の時間の長短は、年級の上下によりて異るものとす。

二、部分縫

衣服は其の種類及び部分によりて、仕立方に難易あり。されば其の難き部分に限り、特に再三練習を重ねて、技術を固定せしめざるべからず、此の目的によりて課するものを部分縫とす。部分縫に用ふる布は、柳條竝に無地木綿、並幅各二尺五寸と柳條半幅二尺三寸のもの二枚と、四つ割幅無地木綿一尺八寸のもの二枚とにして、此の六枚の用布を以て、各種衣服の縫ひ方に先だち、其の要所を練習せしむるものとす。而して一度之れを求めしむれば、卒業に至るまで、なるべく變更せしめざるを可とす。

三、縫ひ方

衣服の縫ひ方を授くるには、前に述べたるが如く、部分縫によりて、先づ其の要所を授け、次に仕立上げ寸法、標附け方、縫ひ方順序等を委しく説明し、十分に了解せしめたる

後、實物に就きて仕立しむべし。而して其の實習中は、机間を巡視して、誤謬を正し、拙劣の點を改めしむべし。

四、裁ち方

裁ち方を授くるには、裁たしむべき衣服につき、普通用布の丈、並に裁ち切り寸法を授け、次に裁ち方の圖を示して、各部分の關係、並に裁ち切るべき順序を說き、積り方の算法を授け、且つ其の應用を試み、了解せしめたる後、實物につきて總尺を計らしめ、仕立上げ寸法、及び總尺數の長短により、各自に積り方の計算をなさしめ、次に其の寸法通り用布を順次に折らしめ、計算の誤りなきを確めたる後、裁ち切らしむべし。若し實物を得難きときは、紙をつきて用布に代用するも可なり。但し其の大さは、實物の二分の一に短縮するを便利とす。

裁縫教授方法の二方面

知識の授與を主とする裁縫教授の方法

第三節　教授の段階

本科は技能に屬する教科の一なれども、裁ち方、積り方等の如く、知識の授與を主とする教材も亦少からざるを以て、教授の方法も、自然二樣に分たざるべからず。而して知識の授與を主とする教材は、一般知識教授の段階により、縫ひ方、繕ひ方等專ら技術の授與を主とする教材は、圖畫・手工等の教科と同じく、技藝教授の段階によるを良しとす。

一、知識の授與を主とする場合

第一　豫備

目的を指示し、次に新に授くべき事項にして、既に學びたる事項に關係あるもの、若くは兒童の經驗に屬するものあるときは、復習・問答して、既有の觀念を想起せしめ、新事

項を了得せしむる豫備とすべし。但し目的の指示は、必ずしも教授の最初にのみこれを行はず、まづ新材料に關係ある舊觀念を喚起して、教授の段に移るときに始めてこれを指示することもあるべし。

第二　教授

將に授けんとする事項を説明すべし。此の際、圖畫・標本・實物等を示して其の了解に便せしむべし。

一事項を教授し終らば、これと關係ある他の事項と比較して、異同を辨ぜしめ、その要點を問答して、確乎たる知識を得しむべし。

第三　應用

既に教授したる範圍内に於て、其の理法を擴張して、種々の新なるものに就き、應用練習せしむべし。

技能の授與を主とする裁縫教授の方法

二、技能の授與を主とする場合

第一　準備

當日の教授に、必要なる器具、及び用布を出して、其の位置を整へしめ、姿勢を正しくせしむべし。

第二　示例

實物・標本若くは圖畫等の善良なる模範を示して、兒童の直觀に訴へ、其の要點及び製作の順序を説き、明瞭に理解せしむべし。又教材によりては、教師自ら實地に行ひて、其の方法を示しつつ説明することあるべし。

第三　實習

實物に就き、與へられたる模範に倣ひて實習せしむ。この際、教師は絶えず机間を巡りて、各兒童につき、それぞれ指導を與へ、方法の正しからざるもの、或は技術の拙きも

のあらば之れを訂正せしめ、尚ほ多數の兒童の模倣し難き箇處、又は誤れる點あらば、教壇に登りて、更に一般に說明するをよしとす。

第四節　材料品

材料品利用上の注意

本科に於ける一齊教授の至難とするところは、材料品を一樣に用意せしむるにあり。されば教授の際は、なるべく之れを節減して、巧みに利用せんことを務むべし。例へば最初單衣を仕立てさせなば、袷を授くる時には、之れを解きて表となし、裏のみを求めしめ、次に綿入を教ふるときには、亦これを解きて表裏となし、綿のみを調へしむるが如し。

雛形を以て教授する得失

或は此の煩を避けんが爲めに、又は取り扱ひ上、及び經濟上の便利なるが爲めに、短小なる雛形を以て教授するを可とするものあれども、此は本科の主要目的たる手指を練習して、精巧迅速に製作せしむべき技能を修練するの効力薄きのみならず、布帛を細かに截斷して、殆んど消耗に屬せしむるが故に、眞の經濟にも適せざるなり。

右の理由によりて本科の教材中、縫ひ方に屬するものは、專ら實物によりて教授せざるべからず。而して其の品質は經濟・質素を旨とし、贅澤若くは華美に流るるものを用ひしむべからず、卽ち德性涵養の目的に一致せんことを要す。初等教育に於ては、普通綿布類を以て、其の技能に適ひたる材料品なりとす。

すべて材料品は、兒童の自辨たるべきは固よりなれども、若し各學校に於て、多少の設備をなして、用意調へがたき兒童に貸與することを得ば、教授上の便利、實に尠少ならざる

なり。

以上論述せしは、本科教授の方法なりと雖も、方法は所謂一種の道具なれば、如何に完全なるにもせよ、其の價値は、畢竟これを使用する人の熟練如何と、教ふべき事柄に就きての十分なる知識・技能を有すると否とに由るものなり。されば之れが教授にあたるものは、深く此の二點に注意して、妄りに形式に流れざらんことを心がくべきなり。

第十章　裁縫科教授細目

教授細目の必要

教則に於て、本科の程度及び教授時間定まると雖も、之れを實際の教授に施すに當りては、更に教材を詳細に調査して、其の排列・分量等を定めざるべからず、是れ教授細目の必要なる所以なり。而して其の選定宜しきを得ると否とは、

教授細目調製上の注意

教授の目的を達する上につきて、少からざる影響あるものなれば、宜しく左の諸項に注意して、適切なるものを調製すべし。

一、教則の示す所に從ふべきこと。

二、兒女の心身發育の度を考ふべきこと。

三、教材を選擇するには、能く土地・學校等に於ける特殊の事情を參酌して定むべきこと。

四、多種の教材を課せんよりは、僅少にして精確に之れを教授し、兒童をして十分に反覆練習せしむるを得べき程度内に於て、之れが分量を定むべきこと。

五、各教材は、單に其の題目のみを掲げずして、題目中に含まるる諸種の要點を詳記し、且つ豫め教授時間を配當し置くべきこと。

六、教材排列の順序は、其の事項の難易に依るべきは固よりなれども、多少季節をも考ふべきこと。

七、某の教科目に特に關係ある事項は、其の進度に照して、本科の教材を排列すべきこと。

八、一の事項は、なるべく其の學年、又は學期内に終り、次の學年、又は學期に渉らぬ樣、注意すべきこと。

九、多少の餘裕時間を存し置きて、練習若くは不時の休業等より生ずる教授の遲滯を補充するを得る樣なすべきこと。

一〇、實用的のものを選び、贅澤に流れ易きものを避くべきこと。

一一、單級、若くは合級の教授に於ける教材の排列は、特に相互の關係に注意して、教授力を平等に分配し得る樣、調製

すべきこと。

左に各種の場合に於ける、二三の細目例を掲げて、參考に供せん。

第一節　單式教授細目例

小學校裁縫科教授細目

尋常科第三學年

第一學期　授業時數　凡十五時　一週一時

一、衣服の種類　一時

一、裁縫用具の名稱　一時

一、用具の用ひ方　一時

一、器具の整へ方　一時

一、針の持ち方及び運び方　一時
一、運針（素縫 本縫）　十時

第二學期　授業時數　凡十五時　一週一時

一、運針　四時
一、絲の結び方（とめむすび、はたむすび、こまむすび）　五時
一、絲の留め方（うちどめ、すくひどめ、かへしどめ、）　三時
一、絲の繼ぎ方（かさねつぎ、むすびつぎ、）　一時
一、縫代及び著せの仕方　二時
一、各種縫ひ方（あはせぬひ、）　六時

第三學期　授業時數　凡十時　一週一時

一、運針　三時
一、各種縫ひ方（ふせぬひ、ふくろぬひ、三つをりぬひ、かさねぬひ、）
一、風呂敷縫ひ方

一、練習

尋常科第四學年

第一學期　授業時數　凡三十時　一週二時

一、運針　六時
一、躾掛け方（ひらとつけ二種、かくしとつけ、）　十時
一、雜巾刺し方（ひらさし、三だんびし、十の字さし、）　六時
一、紒け方（みみぐけ、みつをりぐけ、ほんぐけ、）　六時
一、單前掛縫ひ方　一時

第二學期　授業時數　凡三十時　一週二時

一、運針　一時
一、普通綿布の名稱　一時
一、普通綿布の丈及び幅

一、襦袢　三時
　1、種類
　2、地質
　3、各部の名稱
一、一つ身襦袢　十一時
　1、部分縫
　　袖縫ひ方　衿肩滕(かつ)り方
　　半身縫ひ方（脇縫、馬乘、裾掛、衿附け方、袖附け方、八ッ口新け方、）
　2、仕立上げ寸法　一時
　3、標附け方　二時
　4、縫ひ方順序　一時
　5、仕立方附、疊み方　十時

第三學期　授業時數　凡二十時　一週二時

一、運針　四時
一、一つ身襦袢仕立方（前學期のつづき）　四時
一、綿布繕ひ方
　1、接ぎ方（片返し、割り接ぎ、）　四時
　2、繼ぎ方（しきし、さしつぎ、）　四時
一、腰紐新け方　五時
一、衣服整へ方　一時
一、練習

尋常科第五學年

第一學期　授業時數　凡四十五時　一週三時

一、運針　一時
一、裁縫の意義

一、裁縫用具の名稱及び用ひ方　一時
一、車裁襦袢袖を省く　三時
　1、部分縫
　　脇縫、割鼻の仕方、衿附け方、衿下縮け方、
　2、仕立上げ寸法　一時
　3、標附け方　二時
　4、縫ひ方順序　一時
　5、仕立方　九時
一、衣服の目的　一時
一、單衣の種類及び各部の名稱　一時
一、一つ身單衣　六時
　1、部分縫
　　筒袖縫ひ方

　　前身縫ひ方（紅附け方、衿附け方、衿下縮け方、衿縮け方、）
　2、仕立上げ寸法　一時
　3、標附け方　二時
　4、縫ひ方順序　一時
　5、仕立方　十五時
第二學期　授業時數　凡四十五時　一週三時
一、運針　三時
一、三つ身單衣
　1、部分縫
　　袖縫ひ方　一時
　2、仕立上げ寸法　二時
　3、標附け方　一時
　4、縫ひ方順序

5、仕立方（附紐附け方、肩揚、腰揚の仕方、）　二十五時

一、四つ身單衣

1、部分縫

前身縫ひ方（紅附け方、衿附け方、衿下釬け方、）　五時

2、仕立上げ寸法　一時

3、標附け方　三時

4、縫ひ方順序　一時

第三學期　授業時數　凡三十時　一週三時

一、運針

一、四つ身單衣（前學期の續き）

5、仕立方（附紐附け方、肩揚、腰揚の仕方）　二十五時

一、衣服材料の品類及び名稱・產地　三時

一、練習

尋常科第六學年

第一學期　授業時數　凡四十五時　一週三時

一、運針　一時

一、洗濯の仕方　一時

一、袷各部の名稱

一、一つ身袷

1、部分縫

袖縫ひ方（潤袖、筒袖、）　裄縫ひ方　十四時

前身縫ひ方（紅附け方、衿下釬け方、裾合せ方、縫綴の仕方、衿附け方、横綴の仕方、）　三時

2、裁ち方、積り方　二時

3、標附け方　一時

4、縫ひ方順序

5、仕立方　二十三時

第二學期　授業時數　凡四十五時　一週三時

一、運針

一、一つ身綿入

1、部分縫　十六時

袖縫ひ方、潤袖、筒袖、　褄縫ひ方

前身縫ひ方　紅附け方、衿附け方、裾合せ方、袵綿作り方、衿下新け方、衿新け方、縦横綴の仕方、

2、標附け方　三時

3、縫ひ方順序　一時

4、仕立方　二十五時

第三學期　授業時數　凡三十時　一週三時

一、運針

一、襦袢及び小裁、中裁の裁ち方　六時

一、綿布繕ひ方

1、接ぎ方掛けはぎ、　三時

2、繼ぎ方穴つぎ、　三時

一、子供帶仕立方　八時

一、衣服解き方及び其の整理法　一時

一、衣服材料の性質及び染色　三時

一、練習

高等科第一學年

第一學期　授業時數　凡七十五時　一週五時

一、運針

一、衣服調製に關する心得　一時

一、本裁單衣女物

1、裁ち方、積り方　三時
2、仕立上げ寸法　一時
3、標附け方　二時
4、縫ひ方順序　一時
5、仕立方　二十時
一、本裁單衣男物
1、部分縫　六時
袖縫ひ方、揚の仕方、袖附け方、
2、裁ち方、積り方　一時
3、仕立上げ寸法　一時
4、標附け方　二時
5、縫ひ方順序　一時
6、仕立方　二十時

一、練習
第二學期　授業時數　凡七十五時　一週五時
一、運針　一時
一、衣服保存の方法　三時
一、四つ身袷
1、部分縫
袖縫ひ方
2、裁ち方、積り方裏　二時
3、標附け方　三時
4、縫ひ方順序　一時
5、仕立方　二十七時
一、涎掛數種
1、裁ち方　一時

2、縫ひ方　六時
一、改良前掛二種
1、各部の縫ひ方（みしん縫、まつり縫、千鳥がけ、穴かがり、）　八時
2、裁ち方　二時
3、縫ひ方　十六時

第三學期　授業時數　凡五十時　一週五時

一、運針　三時
一、本裁綿入女物
1、部分縫
袖縫ひ方　三時
2、標附け方　一時
3、縫ひ方順序
4、仕立方　三十時

一、練習

高等科第二學年

第一學期　授業時數　凡七十五時　一週五時

一、運針　三時
一、本裁綿入男物
1、標附け方　二十七時
2、仕立方
一、女袴各部の名稱　一時
一、中裁女袴
1、裁ち方、積り方　二時
2、縫ひ合せ及び襞取り方　一時

3、仕立上げ寸法　一時
4、縫ひ方順序　十三時
5、仕立方　二時
一、洗濯及び張り物の仕方　十二時
一、女腹合せ帶仕立方　十二時
一、女袴若しくは腹合せ帶練習　一週五時

第二學期　授業時數　凡七十五時

一、運針　一時
一、羽織各部の名稱　四時
一、袖無綿入羽織
1、部分縫
前身縫ひ方（前下り縫ひ方、襟の附け方、衿の折り方、附け方、）　二時
2、裁ち方　二時

3、仕立上げ寸法　二時
4、標附け方　一時
5、縫ひ方順序　十二時
6、仕立方
一、本裁綿入羽織（女物）
1、部分縫　五時
前身縫ひ方（前下り縫ひ方、襟の附け方、衿の折り方、附け方、）　二時
2、裁ち方、積り方　一時
3、仕立上げ寸法　三時
4、標附け方　一時
5、縫ひ方順序　二十五時
6、仕立方　二時
一、小裁・中裁羽織の裁ち方

一、子供用頭巾二種　三時
　1、裁ち方　八時
　2、縫ひ方
一、練習

第三學期　授業時數　凡五十時　一週五時

一、運針
一、本裁袷羽織男物　五時
　1、部分縫
　　前身縫ひ方前下り縫ひ方、袷の附け方、
　2、仕立上げ寸法　一時
　3、標附け方　二時
　4、縫ひ方順序　一時
　5、仕立方　二十三時

一、衣服と衛生との關係　一時
一、練習

高等科第三學年

第一學期　授業時數　凡百五時　一週七時

一、本裁袷女物
　1、裁ち方、積り方裏　二時
　2、標附け方　三時
　3、縫ひ方順序　一時
　4、仕立方　二十五時
一、腹合せ帶仕立方練習　十時
一、シャツ・ズボン下各部の名稱　一時
一、中裁シャツ

1、裁ち方、積り方　二時
2、縫ひ方順序　一時
3、仕立方附疊み方　二十時

一、中裁ズボン下
1、裁ち方、積り方　二時
2、縫ひ方順序　一時
3、仕立方附疊み方　十七時

一、中裁股引仕立ズボン下
1、裁ち方、積り方　二時
2、縫ひ方順序　一時
3、仕立方　十七時

第二學期　授業時數　凡百五時　一週七時

一、大人シャツ、ズボン下裁ち方　三時

一、ハンカチーフ敷布類の洗濯　四時
一、大幅中幅物にて本裁長著の裁ち方　四時
一、本裁男袷羽織若しくは女綿入羽織の練習　二十五時
一、本裁單羽織男物
1、部分縫　二時
襠附け方
2、裁ち方、積り方　二時
3、標附け方　三時
4、縫ひ方順序　一時
5、仕立方　二十時
一、小裁中裁羽織の裁ち方　二時
一、被布各部の名稱　一時

一、小裁綿入被布　二時
1、部分縫
小矜縫ひ方
2、裁ち方、積り方　二時
3、仕立上げ寸法　一時
4、標附け方　三時
5、縫ひ方順序　一時
6、仕立方　二十時
一、本裁中裁被布並に被布合羽裁ち方　三時
一、本裁男袴
1、部分縫
腰立糸掛けの順序(本裁小裁の二種)　四時

第三學期　授業時數　凡七十時　一週七時

2、本裁男袴裁ち方、積り方　二時
3、仕立上げ寸法　一時
4、標付け方　一時
5、縫ひ方順序　一時
6、襞取り方　一時
7、各部寸法の割出し方　十八時
8、仕立方
一、小裁中裁男袴
1、裁ち方、積り方　二時
2、仕立上げ寸法　一時
3、縫ひ合せ及び襞取り方　一時
4、仕立方一具　十五時
一、本裁女綿入仕立方練習　二十四時

一、服裝につきての心得　二時

一、練習

〔備　考〕

細目中に記載せる各學年の運針は連續して練習せしむるものにあらずして毎縫ひ方時間の始め若しくは隨時適宜の時間に於て授くべきものなるを以て尋常第三學年の第一學期を除くの外はすべて豫定時間を記入せず

高等小學第三學年は土地の情況によりて設置せらるるものにして必ずしも全國皆之れを設くるにあらざるべきが故に本細目は二學年修業を以て一段落を畫せり

第二節　複式教授細目例

其一

單級裁縫科教授細目

丙組　尋常科第三學年

第一學期　授業時數　一週一時　凡十五時

一、衣服の種類　一
一、裁縫用具の名稱　一
一、用具の用ひ方　一
一、器具の整へ方　一
一、針の持ち方及運び方　一
一、運針　一〇
1、素縫
2、本縫

第二學期　授業時數　一週一時　凡十五時

一、運針
一、絲の結び方　四
1、とめむすび
2、こまむすび
3、はたむすび
一、絲の留め方　五
1、うちどめ
2、かへしどめ
3、すくひどめ
一、絲の繼ぎ方　三
1、かさねつぎ
2、むすびつぎ

第三學期　授業時數　一週一時　凡十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方　一
一、各種縫ひ方　五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方　四

乙組　尋常科第四學年

同　上　一週二時　凡三十時

一、運針
一、各種縫ひ方　四
1、ふくろぬひ
2、かさねぬひ
一、糠袋縫ひ方　五
一、蜆掛け方　六
1、ひらとつけ二種
2、かくしとつけ
一、雜巾刺し方　一二
ひらぎし
十の字ぎし
三だんびし

同　上　一週二時　凡三十時

一、運針
一、綻け方　七
1、みみくけ
2、みつをりくけ
2、ほんぐけ
一、單衣前掛縫ひ方　七
一、綿布繕ひ方　八
1、接ぎ方
片返し
割りはぎ
2、繼ぎ方
しきし
さしつぎ
一、普通綿布の名稱　一
一、普通綿布の丈及幅　一
一、襦袢　四
1、種類
2、地質
3、各部の名稱

同　上　一週二時　凡二十時

一、襦袢部分縫　一八
袖縫ひ方
衿肩かがり方
脇縫割躾の仕方
馬乘の仕方
襟掛の仕方
衿附及其綻け方
袖附け方

甲組　尋常科第五第六學年

同　上　一週三時　凡四十五時

一、運針
一、裁縫用具の名稱及使用法　一
一、衣服の目的
一、裁縫の意義　一
一、一つ身襦袢　二
1、裁ち方、積り方
2、仕立上げ寸法
3、標附け方
4、縫ひ方順序
5、仕立方附、疊み方　一〇
一、一つ身單衣潤釉又は筒釉　六
1、各部の名稱
2、部分縫
筒袖縫ひ方
衽附け方
衿附け方
衿下及襟綻け方
衿綻け方
3、裁ち方、積り方　二
4、仕立上げ寸法　一
5、標附け方　一
6、縫ひ方順序　一
7、仕立方附、紐の附け方　一七

同　上　一週三時　凡四十五時

一、運針
一、一つ身綿入潤釉
1、各部の名稱　一
2、部分縫　七
袖縫ひ方
褄縫ひ方
3、裁ち方、積り方　一
4、仕立上げ寸法　一
5、標附け方　一
6、縫ひ方順序　一
7、仕立方　二八
一、衣服材料の品類及名稱產地　二
一、既授裁ち方及縫ひ方練習

同　上　一週三時　凡三十時

一、運針
一、衣服材料の性質及選び方　二
一、綿布繕ひ方　四
1、接ぎ方かけはぎ
2、繼ぎ方穴つぎ
一、子供帶仕立方　一二
一、襦袢袷袖の縫ひ方
一、裁縫用具の名稱及使用法
一、衣服の目的
一、裁縫の意義
一、車裁襦袢袖を省く
1、裁ち方、積り方　二
2、仕立上げ寸法　一
3、標附け方　一
4、縫ひ方順序　一
5、仕立方附、疊み方　一〇
一、三つ身單衣　一
1、各部の名稱
2、部分縫　三
袂袖或は筒袖縫ひ方
3、裁ち方、積り方　二
4、仕立上げ寸法　一
5、標附け方　一
6、縫ひ方順序　一
7、仕立方　一九

八つ口行き方
心得

一、運針
一、絲の結び方
1、とめむすび
2、こまむすび
3、はたむすび
一、絲の留め方
1、うちどめ
2、かへしどめ
3、すくひどめ
一、絲の繼ぎ方
1、かさねつぎ
2、むすびつぎ

第二學期 授業時數 一週一時 凡十五時

一、運針 四
一、絲の結び方 七
一、絲の留め方 五
一、絲の繼ぎ方 三

同上 一週二時 凡三十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

第三學期 授業時數 一週一時 凡十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

同上 一週二時 凡三十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

同上 一週二時 凡二十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

同上 一週三時 凡三十時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

同上 一週三時 凡四十五時

一、運針
一、縫代及著せの仕方 一
一、各種縫ひ方 五
1、あはせぬひ
2、ふせぬひ
3、三つをりぬひ
一、風呂敷縫ひ方 四

備考

一、本細目は、尋常科第三學年より第六學年に至る兒童を、甲（尋常科第五學年仝第六學年）乙（尋常科第四學年）丙（尋常科第三學年）の三組に編制し、五學年、六學年の兒童を合せて一組となし、同程度の教材を課する時の一例を示したるものなり。蓋し本科の如き階段的に進まざるべからざる教科は、成る可く其の學年に應じたる教材を課するを可とすれども、組數多きときは隨つて教授力の分るることも多きが故に、兒童數の多き單級にありては、斯く編制するを可とす。但し其の數少きときは四組となし、前例單式の部に示せる教材を其の儘各組に配當して可なり。

一、裁ち方は、六學年より授くべきこと敎則に規定せらるるが如くなるを以て、本例中の裁ち方時間は、五學年の兒童には仕立方の時間に加ふるものとす、是れ五學年の兒童は、六學年の兒童に比すれば未熟なるを以て、一敎材にかく二三時間多くの時間を與へて、始めて同時に仕立て上ぐることを得ればなり。

一、裁ち方を授くるときは、なるべく三組同時ならざる時を選ぶべし、已むを得ずば多少進度を變更するも可なり

其二

合級裁縫科教授細目

高等科第一學年

第一學期　一週五時　授業時數凡七十五時

一、運針
一、衣服調製に關する心得　一
一、本裁單衣女物
　1、裁ち方、積り方　三
　2、仕立上げ寸法　一
　3、標附け方　二

同　第二學年　同　上

一、運針
一、本裁綿入男物
　1、標附け方　三
　2、仕立方　二八
一、女袴各部の名稱　一
一、中裁女袴

4、縫ひ方順序	一
5、仕立方	二〇
一、本裁單衣男物	
1、部分縫	六
袖縫ひ方	
揚の仕方	
袖附け方	
2、裁ち方、積り方	一
3、仕立上げ寸法	一
4、標附け方	一
5、縫ひ方順序	二
6、仕立方	二〇
一、練習	
1、裁ち方、積り方	二
2、縫ひ合せ及び襞取り方	一
3、仕立上げ寸法	一
4、縫ひ方順序	一
5、仕立方	一三
一、洗濯及び張り物の仕方	二
一、女腹合せ帶仕立方	一二
一、女袴或は腹合せ帶	
仕立方練習	

第二學期 一週五時 授業時數凡七十五時	
一、運針	
一、衣服保存の方法	一
一、四つ身袷	
1、部分縫	三
袖縫ひ方	
2、裁ち方、積り方裏	二
3、標附け方	三
4、縫ひ方順序	一
5、仕立方	二七
一、涎掛數種	
1、裁ち方	一

同上	
一、運針	
一、羽織各部の名稱	一
一、袖無綿入羽織	
1、部分縫	四
前身縫ひ方前下り縫ひ方、衿の折り方、附け方、	
2、裁ち方	二
3、仕立上げ寸法	二
4、標附け方	二
5、縫ひ方順序	一
6、仕立方	一二
一、本裁綿入羽織女物	

2、縫ひ方	六	1、部分縫
一、改良前掛		前身縫ひ方
1、各部の縫ひ方	八	前下り縫ひ方、襠の附け方、衿の折り方、附け方、
みしん縫		2、裁ち方、積り方 二
まつり縫		3、仕立上げ寸法 一
千鳥がけ		4、標附け方 三
穴かがり		5、縫ひ方順序 一
2、裁ち方	二	6、仕立方 二五
3、縫ひ方	八	一、小裁、中裁羽織の裁ち方 二
一、練習		一、練習
第三學期 一週五時 授業時數凡五十時		同上
一、運針		一、運針

一、本裁綿入女物		一、本裁袷羽織男物
1、部分縫	三	1、部分縫 五
袖縫ひ方		前身縫ひ方 前下り縫ひ方、衿の附け方、襠の附け方、
2、標附け方	三	2、仕立上げ寸法 一
3、縫ひ方順序	一	3、標附け方 二
4、仕立方	三〇	4、縫ひ方順序 一
		5、仕立方 二三
一、練習		一、衣服と衛生との關係 一
		一、練習

第十一章　裁縫科教授案

教案とは、某の事項を教授せんとするに當り、其の奏効を期せんが爲め、踏むべき方法の段階、及び順序を豫定して記

密案と略案

教案の必要

載したるものを云ふ。教案に、密案と、略案とあり、密案は兒童との問答までも一々に豫想して記載し、略案は教材の題目のみを記載するに止まることあり。斯る區別は、一は教材の種類と、程度とによりて生ずべく、一は教師の熟練の深淺によりて生ずべしと雖も、秩序整然たる教授をなして、其の目的を誤らざらんとせば、縱令簡易なる教材にても、又如何に熟達せる教師にても、必ず其の教材に相當せる教授の準備をなさざるべからず。されば、教師は教授に先立ち、詳細に教材を調査し、如何にせば容易に兒童に了知せしめ得るか、若くは此の教材は如何なる教順によりて授くべきか、又教材の彼の部は如何なる教式によるべきか、如何なる實物・圖畫によりて指示すべきか等、十分の調査をなして、豫め其の方案を定めざるべからず、是れ教案の必要なる所以なり。

教案調製上の注意

すべて教案は、毎週之れを調製して、管理者の檢閲を經るを常とすれども、裁縫科の如き、教材の種類によりては、同一のものにて數週に渉ることあるを以て、斯る場合には、必ずしも毎週調製するを要せず、題目變る毎に、其の順序・方法等を記載するを宜しとす。但し此の種の教材は、適宜、數小節に分ち、之れに相當せる豫定時間を配當し置くべし。又時宜によりては、毎週調製するも妨げなし。

教授後の注意

一教材を教授し終らば、豫定の順序・方法は正當なりしか、時間の配當は適當なりしか等につき、教授後の氣附を其の教案に附記し置き、次の學年の參考に供すべし。すべて教授は、最も活動性に富める兒童を對象とするものなるが故に、實際教授の場合に當りては、教授案に豫定したる通りに

行はれ難きことあり、斯る時には、教案にのみ拘泥せず、適宜臨時の處置をなして、教授の目的を誤らざらんことを要す。」

合級・單級等に於ける教案は、教授細目に於けるが如く、相互の關係に注意すること必要なるが故に、一定の方式にのみよる能はざることあり。殊に此の種の教案は、教授作業の相互交代の順序をも明かに記載して、所謂複式教授に適するものならざるべからず。左に各種の場合に於ける二三の例を擧ぐ。

合級・單級に於ける教案

第一節　單式教授案例

其一

尋常科第四學年

第何學期第何週

一、題目　本綴　豫定時間　二時

二、目的　本綴の方法を授け、其の技能に習熟せしむるにあり。

三、教具　本綴の針づかひを擴大して示したる圖
　　竝に其の擴大標本
　　各兒童に貸附すべき本綴の模範標本

四、方法

第一　準備

本題の教授に必要なる用具、卽ち針箱・鯨尺・二尺五寸の運針用布を出して、所定の順序によりて机上に整頓せしめ、後二回程、素縫の練習をなさしむ。

次に目的を指示して、左の問答をなす。

縮け方には幾通りありしか。

三つをりくけの仕方は如何にせしか。

又その針目のあらさは。

縮け方につき注意すべき諸項は。

第二　示例

豫ねて用意したる本縮の掛圖、及び標本を示して能く觀察せしめ、縮代の深さ、針目のあらさ、待針の打ち方、縮け始め、及び縮け終りの糸の留め方等を、これと對照しつつ詳しく説明し、次に本縮の模範標本を各兒童に配布して、更に十分觀察せしめ、尚ほ此の縮け方は如何なる處に用ふべきかを問答的に説示す。

説明

1、用布の縦の兩側を二分五厘の深さに眞直に裏の方へ折り、これを幅の中央より二つに折りて前の折り目とよく合せ、布目の歪まぬ樣に注意して、四五寸おきに待針を打ち、縮け方の用意をなす。

2、用布の長さより二三寸長き糸を針に通して、一端に留め結をなし、三つをり縮の時の如く、縮目を上にして、右手の手前の方より一針逆に出し、五厘程の著せにて向ふがはと縮け合せ、手前を四分、向ふを二分位の針目にて、二針程縮け、右端を掛針にて張る。

3、手前と向ふがはとを一針づつ縮け合はする毎に、針を拔きて糸をひき、ながればり、しらばり等の出來ぬ樣注意して縮け行き、終りは一針戻して著せの中にて打ち留めをなす。

第三　實習

準備したる布につき、説明の順序によりて、先づ本縮の用意をなさしめ、後配布したる模範標本に倣ひて縮け行かしむ。

此の際、教師は机間巡視をなして、其の良否を檢し、批評を加へ、或は自ら縮けて模範を示し、十分收得せしむべし。

かくて一回實習し終らば、更に他の用布にて、今一度練習せしむべし。

一同縮け終らば、姓名を附してこれを出さしめ、その成績を檢し、批評を加へて返附すべし。

教授時間の配當

第一時　説明、示例並に實習一回

第二時　前回の實習に就きて批評及び練習一回

其二

尋常科第六學年

第何學期第何週　豫定時間　一時

一、題目　衣服材料の性質

二、目的　衣服の材料たる毛布・綿布・絹布・麻布・交織等の各種類につき、その性質を授けて、衣服の衛生・經濟・裝飾等に關する知識の一斑を與ふるにあり。

三、教具　毛布・綿布・絹布・麻布・交織等の布帛標本

竝に其の糸標本

保温性・通氣性、水分蒸散の遲速を驗する器械

若くは其の圖類

四、方法

第一　豫備

人々の衣服を用ふるは何故なるか。

衣服に用ふる織物の種類を大別すれば幾通りとなるか、又是等の種類は、如何なる原料にて作られたるものなるか。

等の諸問を發して舊觀念を惹起し、次に目的を指示す。

第二　教授

衣被料の種類

毛糸・木綿糸・生糸・麻糸等の各種標本を示して、纖維の疎密・強弱等を說き、次に右の原料にて織れる毛織・木綿織・絹織・麻織・交織等の布帛標本を配布して、織物の組織、地質の剛柔、重量及び光澤の多少等を比較・觀察せしめ、尙ほ是等諸性の相異るによりて、保温・通氣・吸水・蒸散等の力に强弱・遲速あることを理科に關聯し、且つなるべく實驗によりて說明し、以て衣服につきての衞生・經濟・裝飾等に於ける利害・得失を了得

衣被料各原料の得失

せしむ。

說明

1、毛織　衣被料の温を導く强弱は、畢竟原質及び組織の間隙に含有せる空氣の多少によるものにして、毛は熱の不良導體なり。　總べて毛織物は、織目疎にして空氣を包藏すること夥しく、且つ彈力性あるを以て、濕氣・塵埃等によりて、容易に氣孔を閉塞することなく、隨つて保温・通氣の性に富むものなり。　且つ吸水力强きも、蒸散極めて徐々なるを以て、不快の感を生ずることなく、又重量も輕くして地質柔かなり。　されば衞生上の價値は、諸織物中第一位に居れども、價の不廉なると、虫の害を受け易きと、洗濯の容易ならざるとにより、經濟上にはよき品と云ひ難し。

2、木綿織　保温・通氣・吸水等の諸性を有して、衞生上利あること毛織に次ぎ、且つ價廉にして、地質丈夫に、能く洗濯に堪ふるを以て、經濟上にもよき品なれども、重くして柔軟ならざるは、稍、その缺點なりとす。

3、絹織　柔軟にして輕く、且つ光澤ありて美麗なり。されど保温・通氣・吸水等の諸性に至りては、前二者に及ばざるのみならず、價も亦不廉なるを以て、主として晴着に適するものなり。

4、麻織　濕氣を吸收して、これを蒸散すること甚速かなるを以て、皮膚に冷氣を感じ、盛夏の候、日中に著するに適すれども、保温・通氣等の諸性に乏しく、且つ水分を放散して、氣化する際、潛熱を吸收すること多きを以て、遽かに清冷を感じ、寒氣に冒さるる等の恐れあり。價格

は種類によりて異れども、概して廉ならず。

5、交織　絹綿・絹毛・綿毛・綿麻等の如く、各種の原料を相混じて織りたるものを交織と云ふ。是等の種類は、純粹のものに比すれば價廉なれども、保温・通氣・吸水等の如き衞生上必要なる諸性に乏しきのみならず、又概して光澤少く、地質弱く、洗濯にも堪へがたきを以て、經濟上にも、裝飾上にも、よき品と云ひ難し。

筆記の事項

衣服材料の性質

1、毛織

毛織物の長所

地質疎に、彈性ありて、多く空氣を含むを以て、能く體温

を保護し、且つ容易に汚れ難きこと。
水分の放散徐々なること。
輕くして柔軟なること。

其の短所

虫の害を受け易きが故に、保存に注意を要すること。
洗濯する毎に漸次其の長所を失ふこと。

2、木綿織

木綿織物の長所

毛織物に次ぎて、保温・通氣・吸水等の諸性に富めること。
洗濯に容易にして、且つこれが爲めに其の性を變ぜざること。

其の短所

重くして、柔軟ならざること。

光澤少きこと。

3、絹織

絹織物の長所

輕くして、柔軟なること。
光澤ありて、美麗なること。

其の短所

保温・通氣等の諸性は、毛織・木綿織に及ばざること。
洗濯に容易ならざること。

4、麻織

麻織物の長所

水分を蒸散すること速かなるが故に、酷暑の候に用ふるに適すること。
能く洗濯に堪へ、且つこれを施すに容易なること。

其の短所

保温性に乏しく、且つ蒸散速かなるを以て、衞生上の價値少きこと。

5、交織

交織物の長所

純粹のものに比すれば價廉なること。

其の短所

多くは光澤少く、地質弱く、且つ洗濯に堪へがたきこと。

第三　應用

一、冬季、衣服を重著するは何故なるか。

二、洗濯したる衣服の、汚れたるものより暖かなる理由を話せ。

三、夏季の衣服に、縮織の類を用ふる所以を談れ。

其　三

高等科第一學年

第何學期第何週

一、題目　本裁單衣女物の裁ち方、積り方　豫定時間三時

二、目的　本裁單衣女物の裁ち方、積り方を授けて、確實なる知識を得しめ、且つその應用を自在ならしむるにあり。

三、教具　本裁女物棒衽、及び鈎衽裁ち方の圖

竝に其の折り方の圖

四、方法

第一時

第一　豫備

目的を指示し、次に左の問答をなして舊觀念を喚起す。

四つ身單衣の用布は何程なりしか。

又其の裁ち方は如何にせしか。

各部分の裁ち切り寸法は如何。

其の積り方の公式を述べよ。

第二　教授

本裁棒衽裁ち方の圖を示して、能く之れを觀察せしめ、袖・身頃・衽・衿・衿肩明等の關係を說き、次に用布の總丈、普通裁ち切り寸法、及び裁ち切るべき順序を授け、後積り方の算法を問答的に說明し、四つ身單衣と異る點を比較して、十分に了得せしめ、次に其の要項を筆記せしむ。

筆記の事項

本裁單衣女物棒衽裁ち方、積り方

1、裁ち切り寸法、及び裁ち方の圖

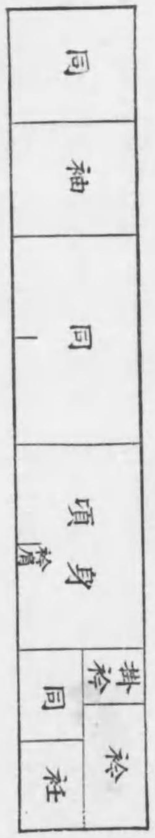
用布並幅二丈八尺八寸

袖丈　一尺六寸　　身丈　三尺九寸

衽下り　五寸　　衿肩明　二寸五分

衽幅　四寸八分　　衿丈　四尺七寸

(衽棒)方ち裁裁本



2、積り方

袖丈×4＋(身丈×6－衽下り×2)＝總丈

(總丈－袖丈×4＋衽下り×2)÷6＝身丈

{總丈−(身丈×6−衽下り×2)}÷4＝袖丈

第三　應用

一、用布の總丈二丈九尺にて、本裁單衣女物を裁たんとするに、袖丈一尺七寸とせば、身丈何程なるか。

二、前題に於て用布の總丈を二丈八尺とし、身丈を三尺八寸とせば、袖丈何程となるか。

第二時

第一　豫備

前の時間に於て、如何なることを學びしか。

本裁單衣棒衽の裁ち方は如何にせしか。

又其の各部の裁ち切り寸法は如何。

積り方の公式を述べよ。

目的指示　今日は前と同じ女物にて、鈎衽の裁ち方を授

裁ち方教授法

けん。

第二　教授

本裁單衣女物鈎衽裁ち方の圖を示して、觀察すべき要點を授け、棒衽の裁ち方と異るところを考へしめ、次に用布の總丈、裁ち切り寸法、各部の關係、裁ち切るべき順序等を説明し、尚ほ此の裁ち方を用ふべき場合、又これにつきて注意すべき事項等を詳しく教授し、後積り方の算法を授け、棒衽と比較して異同の點を判別せしめ、終りて其の要項を筆記せしむ。

筆記の事項

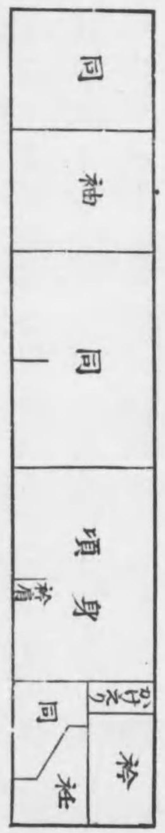
本裁單衣女物鈎衽裁ち方、積り方

1、裁ち切り寸法及び裁ち方の圖

用布並幅二丈八尺

袖丈	一尺六寸	身丈	三尺九寸六分
衿肩明	二寸五分	衽下り	四寸五分
衽幅	四寸八分	衿下	二尺二寸五分
鈎の切り込	七分	衿丈	四尺八寸

（衽鈎）ぢち裁裁本



2、積り方

袖丈×4＋(身丈×5－衽下り)＋鈎下＝總丈

{總丈－(袖丈×4＋鈎下)＋衽下り}÷5＝身丈

{總丈－(身丈×5－衽下り＋鈎下)}÷4＝袖丈

第三　應用

一、袖丈一尺六寸五分、身丈四尺、鈎下二尺五寸の女物鈎衽の單衣を裁たんとせば、總用布何程となるか。

二、片面物にて鈎衽裁になし難きものは、その用布にて衿衽地を、如何に裁ち合はすべきか。

第三時

第一　準備

前回に於て、如何なることを學びしか。

本裁單衣棒衽の裁ち方は、如何にせしか。

又鈎衽の裁ち方は。

鈎衽は、如何なる場合になすべき裁ち方なるか。

又其の積り方は。

裁ち方をなすには、如何なる心得を要するか。

反物の巻き方、置き方、及び其ののべ方は、如何にすべきか。等の諸問を發して、思想整理をなし、後豫ねて携帶せしめ置きたる用布、及び裁ち方用具を出して整頓せしむ。

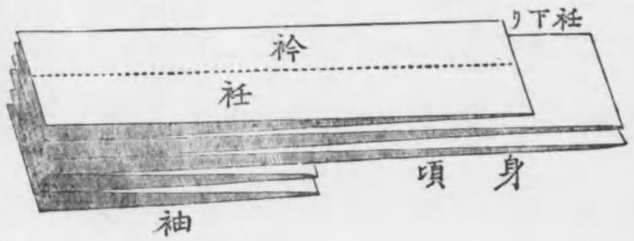
第二　示例實習

本裁單衣女物棒衽並に鈎衽裁ち方、及び折り方の圖を示して比較對照しつつ、裁ち切るべき順序を問答的に説明し、能く了解せしめたる後、各自の實物を出して、總尺をはからしめ、織斑・染斑・汚點等の有無を檢せしむ。

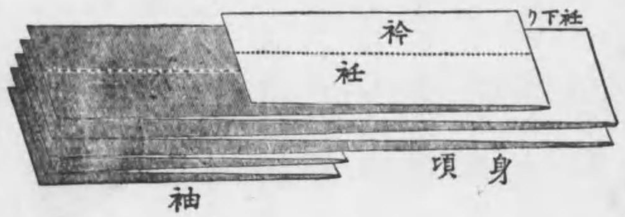
次に各兒童の家庭より持參せる寸法によりて、積り方の計算をなさしめ、これを左の順序によりて折り重ねしめ、机間巡視をなして、誤りなきを確めたる後、裁ち切らしむ。

1、折り方順序　圖の如く、先づ袖丈四枚を折り、次に身丈四枚を其の上に折り重ね、それより棒衽裁は衽丈二枚を、鈎

本裁單衣棒衽裁折り方圖



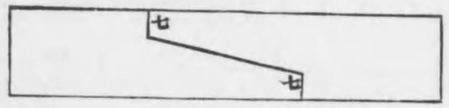
同鈎衽裁折り方圖



衽裁は衽丈一枚と鈎下丈一枚とをまた其の上に折り重ぬ。

2、裁ち方順序　先づ袖と身頃との境の折り目を裁ち切り、更に袖布の中央を横に裁ち切りて左右の袖とし、次に身頃と衿衽地との境の折り目を裁ち、

肩山を揃へて衿肩を明け、後其の下部の中央を切りて左右の身頃となす。　それより衿衽地を取り、衽幅をはかりて縦に折りをつけ、これを裁ち放ちて、衿と衽とに分ち、棒衽のものは更にその中央より横に二つに切りて左右の衽となし、また鈎衽のものは表を上に、耳を手前にして机上に置き、左の端より衽丈をはかりて、手前卽ち耳の方に鈎(幅七分)の切り込みの標を入れ、次に向がはの右の端より、前と同寸の衽丈をはかりて、亦切り込みの標を附け、此の兩切りこみの標をつなぎて、圖の如く斜に通しべらをなし、先づ兩側の七分を裁ち切り置き、後へらかたの通りに斜の所を裁ち切る。



次に衿布の織終りの方より、寸法通り衿丈をはかりてこれを裁ち切り、殘りを掛衿となす。

右終らば、よく布數を檢べて疊み置かしめ、後二三の兒童をして、裁ち方の順序を復演せしめ、知識を確實ならしむべし。

備考　本例は、一敎材にて數時間に渉る場合に於て、一時間毎に敎授の方法を記載するの一例を示したるものなり。　實物裁ち方の際、兒童中、棒衽を裁つものと、鈎衽を裁つものとあるときは、臨時其の席次を變更して、同種類を裁つものを相隣せしむべし。

第二節　複式敎授案例

尋常小學校單級裁縫科教案

第何學期　第何週

組	題目	方法	納具
丙組 尋常科第三學年	針の持ち方 運び方 姿勢 豫定時間一時	目的を指示し次に裁縫用具の名稱を問答し尚ほ針の持ち方につき兒童の知れる處を問ひ掛圖及び教師の示範によりてその持ち方を十分了得せしめ後指貫の篏め方針めどの通し方等を授けてこれを實習せしむ	
	針の持ち方 指貫の篏め方 針めどの通し方 實地練習	次に針の運び方即ち左右の手及び指の動かし方、布の張り方、姿勢の取り方等につき、掛圖、及び示範によりて、よく説明し、後用布につきて實習せしむ。	
	針の運び方、實地練習、 机間巡視	次に裏を出して、布の撚れぬ樣、處々に待針を打ち、二分五厘の縫代にて袋縫ひをなさしめ、並みの著せにて手前に折りをつけしむ。	實地縫ひ方の批正 方法の復演 納具
乙組 尋常科第四學年	各種縫ひ方 ふくろぬひ 豫定時間一時	運針 用布にて本縫を練習せしむ	車裁襦袢仕立上げ寸法 標附け方 豫定時間一時
	合せ縫ひの仕方を問答して目的を指示し、袋縫の掛圖及び標本を示して能く觀察せしめ、その縫ひ方、及び用處を詳しく説明し、次に各兒童に模範標本を配布し之れに倣ひて先づ布の表より一分の縫代にて合せ縫をなさしむ		車裁襦袢の仕立上げ寸法を記したる小黑板を掲げ、各自の裁縫帳を出して筆記せしむ。
	一分の縫代にて合せ縫 實習 机間巡視		車裁襦袢仕立上げの圖、若くは標本を示して其の寸法と對照しつつ説明して了解せしめ、後標附け方の順序及び圖解を筆記せしむ。尚ほ時間に餘裕あらば、寸法を復習記憶せしむ
			車裁襦袢 標附け方の順序 並に圖解筆記 寸法復習
	袋縫實習 机間巡視		筆記せしめたる標附の順序、及び圖解につき、更に詳しく説明して一つ身襦袢と異る所を了得せしめ、後その要點を問答して知識を確かならしむ。 右終りて、板上に標附けの圖を書し、兒童をして其の順序を記入せしむ。
	納具		標附けの順序記入
甲組 尋常科第五學年	車裁襦袢仕立上げ寸法 標附け方 豫定時間一時		
第六學年			

年學	丙組	乙組	甲組
第三科	尋常	尋常	尋常
	豫定時間一時	豫定時間一時	豫定時間一時
	運び方 姿勢	各種縫ひ方 ふくろぬひ	車裁襦袢仕立上げ寸法 標附け方
	次に裁縫用具の名稱を問答し尚ほ針の持ち方につき兒童の知れる處を問ひ掛圖及び教師の示範によりてその持ち方を十分了得せしめ後指貫の嵌め方針めどの通し方等を授けてこれを實習せしむ	運針 用布に本縫を練習せしむ	車裁襦袢の仕立上げ寸法を記したる小黒板を掲げ、各自の裁縫帳を出して筆記せしむ。
	針の持ち方 指貫の嵌め方 針めどの通し方 實地練習	合せ縫ひの仕方を問答して目的を指示し、袋縫の掛圖及び標本を示して能く觀察せしめ、その縫ひ方、及び用處を詳しく説明し、次に各兒童に模範標本を配布し之れに倣ひて先づ布の表より一分の縫代にて合せ縫をなさしむ	車裁襦袢仕立上げの圖、若くは標本を示して其の寸法と對照しつつ説明して了解せしめ、後標附け方の順序及び圖解を筆記せしむ。尚ほ時間に餘裕あらば、寸法を復習記憶せし
	針の運び方、實地練習、 机間巡視	次に裏を出して、布の撚れぬ樣、處々に待針を打ち、二分五厘の縫代にて袋縫ひをなさしめ、並みの著せにて手前に折りをつけしむ。	車裁襦袢 標附け方の順序 竝に圖解筆記 寸法復習
	納具	袋縫實習 机間巡視	筆記せしめたる標附の順序、及び圖解につき、更に詳しく説明して一つ身襦袢と異る所を了得せしめ、後その要點を問答して知識を確かならしむ。 右終りて、板上に標附けの圖を書し、兒童をして其の順序を記入せしむ。
		實地縫ひ方の批正 方法の復演 納具	標附けの順序記入 納具

備考

表中の▬は五分間づつの印にして、太き黒線は直接教授をなすべき場合を示したるものなり。

其二

尋常小學校合級裁縫科教案

第何學期第何週

學年	題目		方	分
尋常科第三學年	糸の繼ぎ方 重ねつぎ 結びつぎ 豫定時 問一時	五分	1目的を指示し、糸の繼ぎ方の標本を各兒童に配布して、之れを觀察せしむ。 3糸の繼ぎ方は、如何なる場合に用ふるものなるかを問答し、次に其の種類、及び方法を圖につきて詳しく說明し、標本と對照	五分
同 第四學年	普通綿布の名稱 豫定時 問一時		2木綿の名稱につき、兒童の知れるところを問答し、次に各種の標本を示して、觀察せしむ。	

標本觀察

法			
せしめ、後二尺五寸の運針用布につき、先づ重ねつぎをなすべきことを命ず。			
重ぬつぎ實地練習。	十五分	4 標本につき、教師更に順序正しき説明を與へ、其の名稱を板書して、筆記せしむ。	
5 机間を巡視して、重ねつぎの仕方を檢し、更に此の布を用ひて、結びつぎをなさしむ。	十分	筆記	
結びつぎ實地練習。 机間巡視。	十分	6 普通の綿布は、幾通りありしか。 金巾の種類を述べよ。 飛白の名稱につき、知れる所を談れ。	

備考　表中の數字は、教師の直接教授をなすべき順序を示したるものなり。

第十二章　裁縫教授上の注意

一、器具の整理に關すること

裁縫用具竝に材料品は、常に整頓して一定の場所に置かしむべし。然らざれば、置場所を忘れて、之れを搜索する爲め、無用の時と勞とを費すのみならず、秩序整頓等の習慣を養ふ上に、少からざる影響あればなり。殊に針は、微小銳利なるものなれば、其の取扱を粗末にするときは、啻に紛失の恐れあるのみならず、爲めに往々不測の危害を招くことあるを以て、特に其の注意を深からしむべし。

左に是等用具の整理に關する心得を擧ぐ。

毎時間の始めに於て

1、針箱の蓋を明けしめ、之れを其の下にして、右手の方に

置かしむ。

2、針箱の中より、針刺・鋏・筦・指貫・絲卷等を出さしめ、指貫は右手の中指に、其の他は針箱の左傍に置かしむ。

3、鯨尺を机の向ふに、用布を其の眞中に置かしむ。

4、針を點檢せしむ。

毎時間の終りに於て

1、針を點檢せしむ。

2、針刺・鋏・筦・絲卷・指貫等を箱中に收め、屑糸を整理せしむ。

3、用布を疊ましむ。

二、姿勢に關すること。

姿勢は、何れの教科に於ても注意して正さざるべからずと雖も、裁縫科に於て特に其の然るを認む。卽ち頭部を垂れ、上體を屈め、縫ひ物を近距離に近くる等は、最も本科

姿勢に關する注意

に生じ易き弊害なればなり。左に其の概要を述ぶべし。

1、胸部を稍張り、體を眞直に保たしむ。

2、布の高さは、胸部の向ふ眼先き八九寸を離さしむ。

3、兩手間の隔りは、初歩の間は四五寸とし、漸次上達するに從ひ、其の距離を遠くして凡そ八寸位迄に至らしむ。

4、兩肘を離し、兩手を同時に動かさしむ。

裁縫教室の整理

三、裁縫の教室は、動もすれば綿屑・糸屑・布片等散亂して、室内を不潔ならしめ、且つ使用の器具も、其の數多きを以て、自然不整理に流るるの傾きあるものなれば、教師は、常に能く整頓して、之れを清潔ならしむると共に、兒童をして用具の整理に關する、良模範となさしむべし。

器具材料の整理

四、兒童所持の器具、竝に部分縫用布には、總べて年級、及び姓名を記さしめ、紛失の恐れなからしむべし。又部分縫用

布は、時々洗濯せしめて、皺・折り目等の顯はれぬ樣、注意せしむべし。

實物教授上の注意

五、衣服の裁縫には、一・定の寸法ありと雖も、著用者の體格により、又は使用の場合によりて、多少變更せざるべからざることあり。故に實物の教授に於ては、啻に定式にのみ拘泥せず、勉めて實際に適せしめんことを要す。

卒業前の注意

六、卒業期に至らば、最初より授けし衣服の寸法を一覽表に作らしめ、他日の參考に供せしむべし。

褄袂に關する注意

七、褄の揚げ方、袂の丸め方等は、衣服仕立方中の最も六ケ敷部分なるを以て、之れが教授の方法に於ても、種々の説あれども、要するに初歩の間は、適當なる形を用ひて作らしむるを良しとす。如何となれば、褄の形に對する醜美の觀念の未だ明かならざるものに、強て寸法のみを以て之れを想像せしめ、完全なるものを製作せしめんとするは、却て勞多くして、其の効果少きを以てなり。但し上級に進み、形の良否を自身に判別し得るの期に至らば、時々寸法のみによりて作らしむるも可なり。

材料品準備上の注意

八、一學年間、若くは一學期間に課すべき教授の材料品は、豫め家庭に通告し、其の準備に注意せしむべし。

順序に關する注意

九、運針習熟の後、衣服を製作せしむる時期に至らば、小裁物より始むると、本裁物より始むるとの兩説ありて、兩者各其の理ありと雖も、要するに土地の情況により、各種小裁の材料品を調ふる能はざる所に於てのみ、本裁物より授くるものとす。

成績判定上の注意

十、兒童の成績は、平素に於て仕立上げたる品、竝に時々裁ち方、積り方等に關する問題を與へて之れを試み、其の優劣

を判定すべし。但し縫ひ方の成績は、裁ち方、積り方に於けるより稍、重きを置くものとす。

第十三章　裁縫教授に要する設備

第一節　教室

裁縫教室の構造

裁縫教室は、通常教室の如く、机・腰掛を用ふる樣に造るを良しとす。或は疊敷として坐せしむる方、家庭に於ける動作との連絡上利ありとの說あれども、衞生・教授・管理等の如き、教育上最も大切なる諸點より考ふるときは、腰掛によらしむるの善良なるに如かざるなり。若し他學科の教室、例へば作法教室の類を兼ぬるが爲め、疊敷となすの已むを得ざるときは、低き机を用ひて其の上にてなさしむべし。斯る場合には、下級の兒童には、通常教室にて教授するを良しとす。是れ下級の兒童は、管理上の注意を要すること多きと、取扱ふべき衣服も短小なるを以て、小さき机にても、甚しき不便を感ぜざるとによりてなり。

光線の採り方

裁縫教室は、兒童一人に要する面積、通常教室より多きを以て、隨つて割合に廣き教室を要するなり。又此の科の特質として、最も光線を要するが故に、採光窓の如きも、通常教室より其の面積を廣くし、又國風の家ならば、戸障子を多くせざるべからず、而して主なる光線は、通常教室の如く、左方より受くるを良しとす。

教室内の温度

教室内の温度は、常に注意して適宜ならしむべし、是れ寒冷に過ぐれば、手指の運用自在ならず、暑氣烈しければ、顏面及び手指の發汗によりて、材料品を汚し、或は汚點を生ずる等の恐れあればなり。又常に火鉢を使用するが故に、特に

換氣に注意して、不潔の空氣の停溜を防ぐべし。

第二節　教具

裁縫に要する器具中、學校に於て設備すべきものと、兒童各自に用意せしむべきものとの二種あり。左に其の種類、及び製作法の大要を擧げん。

但し兒童に用意せしむべき器具を、設備の章に入るるは、稍、其の當を得ざるが如くなれども、いづれも裁縫をなすに必要なる道具なるを以て、併せて此處に説くこととせり。

學校にて設備すべき器具

甲、學校にて設備すべき器具

黑板・机・腰掛・戸棚・掛圖・標本・壓板・火鉢・火熨斗・同臺・烙鏝・同臺・蒲團・定木・霧吹・唐鋏等とす。

但し洗濯法を實習せしむるときは、此の他、洗濯場・盥・張板・簽・洗板・洗濯刷毛・各種の洗濯劑等を用意すべく、又中等教育にありては、尙ほ裁板・裁庖刀・綿延（わたのはし）・みしん器械等をも備ふべきものとす。

兒童用机の用材及び寸法

一、机　机の種類は、兒童用のものと、教師用のものとあり。兒童用のものは、更に小形・大形・疊敷用の三種に分る。すべて裁縫に用ふる机は、箆臺兼用のものなるが故に、其の面の木質を選ばざるべからず。卽ち朴（ほう）は最も之れに適するものにして、銀杏・柳等之れに次ぐ。其の構造は、二人掛にして抽出なく、寸法は兒童の身長及び年級によりて異れども、大概左の二種によるものとす。

兒童用机小形　高　一尺八寸　長　五尺

幅　一尺七寸五分　厚　七分以上一寸以下

同大形

高　二尺　長　五尺五寸

幅　二尺四寸五分　厚　七分以上一寸以下

疊敷用机

高　小　六寸五分　大　七寸五分

但し長・厚・幅等總べて高机に同じ。

教師用机抽出つき

高　二尺一寸　長　五尺五寸

幅　三尺五寸　厚　一寸

以上の小形は、專ら尋常科に……大形は高等科に用ひしむるものにして、大形を斯く幅廣になすは、一齊に箆附けせしむる際、竝幅の布を二枚ならべ、兩側より向ひ

腰掛の寸法

戸棚の種類及び寸法

合ひて附けしむるが故なり。若し右の二種類を備ふる能はざるときは、大形の高さを斟酌して用ひしむべし。

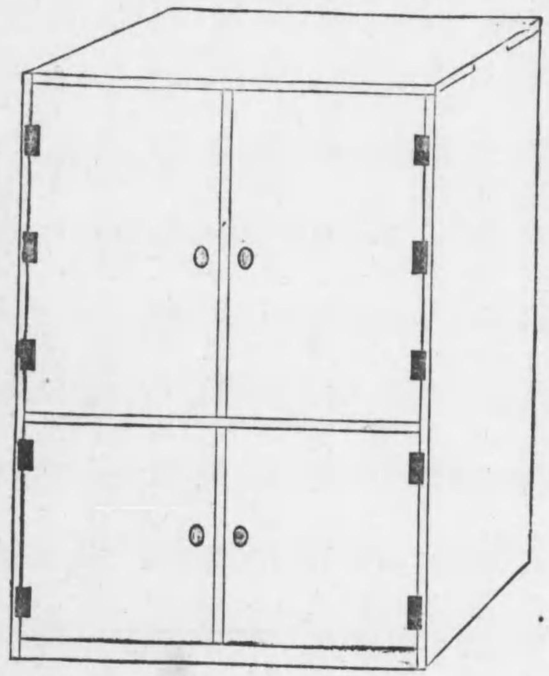
總べて裁縫用机は、通常教室の机より、稍低きを良しとす。又机の向裏側には、何れも先の曲りて環狀をなせる眞鍮の捩釘を穿ち、之れに紐を通して掛針となさしむべし。

二、腰掛　裁縫教室に用ふる腰掛は、其の製作法、及び寸法等、略ぼ通常教室のものに同じと雖も、其の長さは、机の下に入れ得る樣作るべし。然らざれば、綿入若くは箆附等の際、其の兩側に立ちて事を取るに當り、一々腰掛を傍に出さざるべからざる不便を生ずるを以てなり。

三、戸棚　戸棚の種類は、裁縫品を入れ置くべき兒童用のものと、仕立上げたる品を預り置くべき教師用のものと、標本を收め置くべきものとの三種を要す。次に其の寸

法、及び構造の大要を述ぶべし。

兒童用戸棚

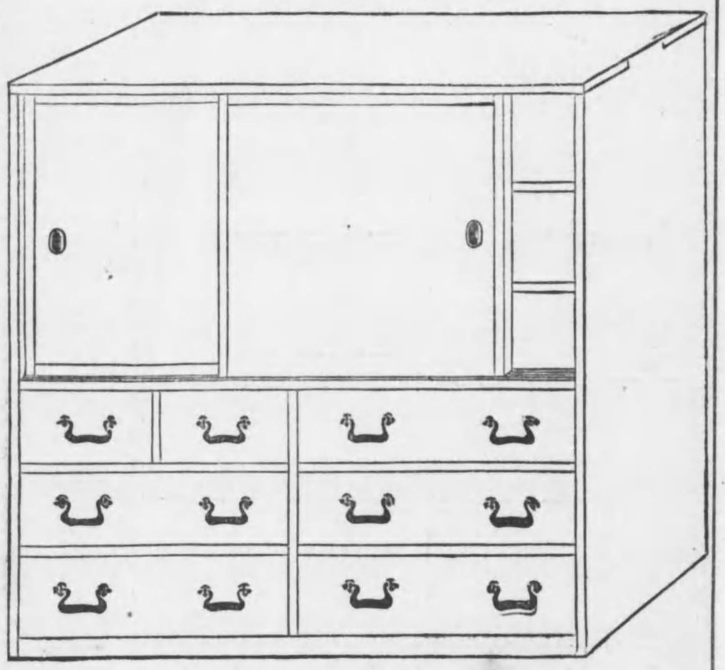


高　五尺三寸
幅　四尺五寸
奥行二尺

上段三尺三寸

戸棚の材質は槍を最上とすれども、其の價不廉なるを以て、通常多くは樅・杉等を用ふ。其の造り方は、上圖の如く

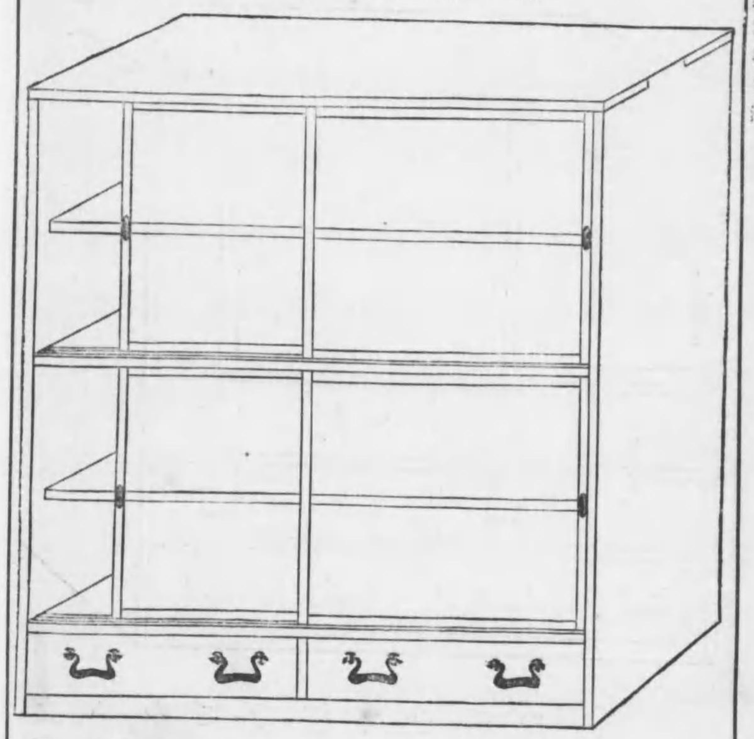
教師用戸棚



上下の二段に分ちて、各、板の開戸をつけ、上段に、更に三段若くは四段、下段に一段の棚をかく。而して上には裁縫品を入れ、下には針箱のみを入れしむる所とす。

但し尋常科用は、今少しく高さを減ずるを

標本入戸棚



可とす。

教師用戸棚

高　五尺三寸
幅　五尺八寸
奥行二尺
上段三尺

上段は、圖の如く板の引戸となし、中に二段の棚を設け、下には三段の抽出をつく、是れ下段は、塵

埃入り易くして、抽出とせざれば清潔を保ち難きを以てなり。

標本入戸棚

高　五尺八寸　幅　五尺八寸
奥行　二尺　抽出の深さ五寸

標本は、外部より見ゆるを可とするが故に、戸は硝子を用ひて引戸とし、上下の二段に別ち、中に各一段若くは二段の棚を設け、下部には淺き抽出をつく。而して細目の順序に從ひて、其の標本を配列し置くものとす。

以上三種の戸棚は、なるべく塗りたるを良しとすれども、經費の都合によりては、白木にても宜しかるべく、何れも錠前をつけ、戸締を嚴にすべし。而して取扱上便利ならしめんには、上下の二段に分ち、重ね戸棚となすを可とす。

又其の數は、兒童用のものは、一學級毎に各一、教師用のものは、教師一人につき各一を要すべく、標本入は、一校に一を備ふべし。

此の他中等教育にありては、烙鏝・火熨斗等の器具を使用すること多きを以て、是等を載せ置くべき棚をも備ふるを可とす。

掛圖の種類

四、掛圖　掛圖の種類は、各種縫ひ方圖、同衣服名稱圖、同裁ち方圖、同標附け方圖等なり。是等の諸圖は、實物大のものを用ふれば、其の觀念を與ふるに容易なりと雖も、長大に過ぐるものは取扱上不便なるを以て、適宜の大さに短縮するを良しとす。而して何れも實物に比例して、丈・幅等寸法の割合を成るべく正確ならしめんことを要す。蓋し本科に用ふる圖類は、單に大體の形狀を示すに止まらずして、圖類其のものによりて、直ちに本科に於ける知識・技能を與へんことを要すればなり。

標本の種類

五、標本　標本の種類は、各校に於て規定せる細目に從ひ、兒童に携帶せしむべき各種の用具より、製作せしむべき諸種の衣服、並に各種縫ひ方、各種部分縫、普通の服地・染色等とす。而して各種縫ひ方、並に部分縫の標本は、模範として各兒童に貸與すべきものなるを以て、豫め兒童數だけ調製し置くべく、しかも其の技の良巧なるべきは固より、微細の箇所をも判明に了得せしめ得る樣作るべし。

服地・染色等に關する教授は、主として衣服に就ての衞生・經濟等の知識を與ふるにあれども、兼ねて美感を養ふべきものたるべきを以て、之れが標本を調製するにあたりても、啻に其の種類を集むるのみに止まらずして、柄合・色

取等、成る可く美術的に作られたるものを選ぶべし。其の製作の方法は、縦五寸横四寸程の大さの臺紙を造り、之れに標本となすべき布帛の上部二寸程を貼附し、下部を放し置くなり。斯く一種類毎に一枚づつとなすは、多數の兒童に同時に教授するに當り、各種類を交互に觀察せしめ得ると、或は一標本のみを提出し、又は分類・比較せしむる等の便あればなり。

壓板の用材及び寸法

六、壓板（あしいた）は、衣服に壓をかくるに用ふるものなれば、なるべく重きを要するが故に、欅・桂等の如き材質緻密にして、重量の重きものを可とす。其の寸法は

長　三尺　　幅　二尺

厚　一寸五分

にして一校に三四枚を備へ置くべし。

火鉢の造り方及び寸法

七、火鉢　裁縫に用ふる火鉢は、火勢を強くするを以て、特に防火の用意を嚴重にせざるべからず、側面、及び下底に煉瓦を敷くなど、其の一法ならん。而して烙鏝を載すべき五徳樣のものを造りて火上に置き、上には必ず金網の被をかくべし。火鉢の大さは二尺四方位を適度とす。

火熨斗の造り方

八、火熨斗　は其の面極めて滑かに研きたるものにして、重量は凡三百五十匁程なるを可とす、是れ輕きに過ぐれば其の効力薄く、重きに過ぐれば使用に不便なればなり。又其の臺には、必ず石綿を貼りて、焦燒を防ぐべし。

烙鏝の大さ及び寸法

九、烙鏝　烙鏝には、唐鏝・和鏝の二種あり、各中の大さのもの十挺位づつを用意すべく、又其の臺は長七寸、幅四寸五分の長方形の板に低き緣をつけ、之れに金屬の細き棒二本を鍼（はり）めたるを造りて、其の上に載せしむべし。

蒲團の造り方及び寸法

十、蒲團　火熨斗蒲團・烙鏝蒲團の二種あり。火熨斗をかくる時に用ふる蒲團は、大幅の白金巾にて、長さ三尺位に造り、中に厚からぬ様綿を入れ、處々綴ぢ置くなり。又烙鏝に用ふるものは、火熨斗に用ふるものより、稍硬きを可とするが故に、底を薄き板、若くはボール紙とし、上に薄く綿をかけ、白布にて被ひ置くなり。

其の大さは、長二尺、幅一尺位にして、およそ十枚程を備ふべし。

烙鏝を使用するに當り、焦燒の度を檢する爲め、小さき机様の臺を造り、是れに不用の紙若くは布片を綴ぢ附けたるを火鉢の傍に置き、使用の度毎に、先づ是れにて試むる様にせば、最も可なり。

霧吹の用材

十一、霧吹　は普通に用ふる鐵葉製のものにても可なれども、成る可くはスプレーを用ふるを良しとす。是れ鐵葉製のものは、動もすれば内面に錆を生じて、水を不潔ならしむる恐れあるのみならず、其の構造に於ても、不完全の處ありて、衞生上にも宜しからざればなり。

兒童に用意せしむべき器具

乙、兒童に用意せしむべき器具

針箱・針・針刺・鋏・篦・鯨尺・指貫・糸卷・褄形・袖形とす。

針箱の大さ

一、針箱　は成る可く懸子ある小匣にて、其の中には、裁縫用小道具竝に部分縫用布を入れ置くに適する大さのものを、一同に揃へしむるを可とす。

針の數及び長さ

二、針　の數は、級の上下によりて異なるものにして、下級には縫針二本、絎針二本、待針五本とし、上級には、尙ほ針五本を加へて十本とす。

縫針の長さは、針頭を指貫にあて、食指・拇指にて持ち、針尖

一分五厘、卽ち普通の針目程出づるを適度とす。されば指の長短によりて、各自使用の針は、其の長さを異にするものとす。

針刺の造り方

三、針刺　は中に脱脂綿を入れ、すべての針を刺し置くに適する大さに作らしむべし。往々糠・穀粉、若くは毛髪等を入るるものあれども是等は何れも黴菌發生の恐れあれば、決して用ひしむべからず。

鋏の大さ

四、鋏　兒童は動もすれば小さきものを用ふるの傾きあれども、こは使用上不便にして、爲めに多くの時を費すを以て、成るべく相當なる大さのものを用ひしむべし。殊に布帛の截斷に用ふるものは唐鋏を最も可とす。

篦の用材

五、篦　は眞鍮・竹・角等にて造れども、角篦を最も可とす、而して鋏と同じく、其の形の餘り小さからぬものを用ひしむべし。

指貫の造り方

六、指貫　は、皮若くは紙の心に眞綿を卷きて縢りたるを用ひしむべし。金屬にて作りたるは、初歩の兒童には宜しからず。

此の他、裁ち方及び標附け方等のときには、三角定木、チョーク等をも用意せしむべし。

三訂 裁縫教授法 終

附錄一

文部省訓令第十二號（明治四十四年七月二十九日官報抄出）

高等女學校及び實科高等女學校教授要目

裁縫

本要目中單に衣類の名稱のみを掲ぐるものは仕上げに至るまで生徒をして實習せしめ「說明」の二字を加ふるものは必要なる事項の說明に止めて實地の仕立を省くべし。

高等女學校

第一學年

基礎的技術の練習　　毎週四時

運針法　絲の結び方、留め方、繼ぎ方　縫ひ合せ方　躾掛け方　絎け方等
各種襦袢の裁ち方練習
一つ身單衣
四つ身單衣
三つ身袷
一つ身綿入
綿布の繕ひ方

第二學年

毎週四時

本裁男女單衣
本裁女袷
本裁男袷
本裁女綿入
本裁男綿入の説明
片面物及び中幅・大幅物にて小裁・中裁・本裁の裁ち方、積り方

第三學年

毎週四時

女袴
小裁・中裁女袴の説明
本裁女綿入羽織
本裁男綿入羽織の説明
本裁男袷羽織
小裁・中裁羽織の説明
小裁・中裁・本裁被布（中一枚仕上げ）
片面物及び中幅・大幅物にて羽織・被布の裁ち方、積り方
腹合せ帶

第四學年

毎週四時

絹布單衣
毛織單衣の説明

絹布・毛織の繕ひ方
男袴
小裁・中裁男袴の説明
本裁男單羽織・
丸帶・男帶（中一筋仕上げ）
本裁女小袖
本裁女小袖重ね物の説明
シャツ・ズボン下
足袋・涎掛の類

修業年限五箇年のものに在りては本要目第四學年の教授事項に長襦袢・股引・夜着（雛形）・蒲團（雛形）等を加へ適宜之を第四學年・第五學年の二學年に配當し又本要目中説明に止めたるものに就きて實習せしむべし。

實科高等女學校

修業年限四箇年のもの

第一學年

毎週十四時

基礎的技術の練習
運針法　絲の結び方、留め方、繼ぎ方　縫ひ合せ方　躾掛け方　新け方等
小裁・中裁襦袢
本裁男女襦袢
一つ身單衣
三つ身單衣
四つ身單衣
一つ身袷
三つ身袷
四つ身袷
一つ身綿入
三つ身綿入
四つ身綿入

本裁女單衣
本裁男單衣

第二學年

毎週十四時

前衿裁袷
本裁女袷
本裁男袷
本裁女綿入
本裁男綿入
片面物及び中幅・大幅物にて小裁・中裁・本裁の裁ち方、積り方の說明
長襦袢
一つ身袖無綿入羽織
四つ身綿入羽織
本裁女綿入羽織
本裁男綿入羽織

本裁男袷羽織
片面物及び中幅・大幅物にて羽織の裁ち方、積り方
手提袋の類
子供腹掛
涎掛
女袴
小裁・中裁女袴

第三學年

毎週十八時

綿布男袴
小裁・中裁綿布男袴
絹布女單衣
絹布の繕ひ方
一つ身袖無被布
四つ身被布

本裁被布
片面物及び中幅・大幅物にて被布の裁ち方、積り方
被布合羽
腹合せ帶
ミシン使用法
西洋涎掛・西洋前掛各種
シャツ類
ズボン下類
毛織單衣
毛織の繕ひ方
絹布本裁女袷
絹布本裁男袷
絹布本裁男袷羽織
絹布本裁男綿入羽織

第四學年

毎週十八時

絹布本裁男單羽織
絹布本裁女單羽織
絹布本裁女袷羽織
絹布本裁女綿入羽織
本裁女小袖一重
本裁男小袖一重
本裁單衣重(雛形)
比翼(雛形)
絹布本裁男袴
丸帶
男帶
男股引
女股引

足袋
女兒洋服の下着類
簡易なる小兒洋服
小兒帽子類
夜着(雛形)
蒲團(雛形)
蚊帳の說明

修業年限三箇年のもの

第一學年　毎週十四時
第二學年　毎週十八時
第三學年　毎週十八時

修業年限四箇年のもの丶第二學年・第三學年・第四學年に準じ適宜同第一學年の敎授事項を加へ授くべし

修業年限二箇年のもの

第一學年　毎週十八時
第二學年　毎週十八時

修業年限四箇年のもの丶第三學年・第四學年に準じ適宜第一學年・第二學年の敎授事項を加へ授くべし

【注意】

一　本要目に示したる事項は土地の情況に依りて取捨選擇を加へ力めて實用に適切ならしむる樣敎授すべし。

二　本要目中說明に止むるもの又は特別なる練習を課するもの丶外は通常裁ち方・積り方・寸法・標附け方・縫ひ方順序を授けて仕上げしむるにあれども其の物の性質に隨ひ便宜ある事項を加へ若しくは之を省くべし例

へば帶に於ては裁ち方積り方を省き袴に於ては寸法割出し方・襞取り方等を加ふるが如し。

三　新に授くるものにて其の縫ひ方の緊要なる部分に就きては特に部分縫を課すべし例へば袂の丸め方・褄縫ひ方等の如し。

四　本要目中「説明」として掲げたるものは材料の性質に依りては教師より説明を與ふることなく既授事項の應用として生徒に自ら考案せしむべし

五　模範となるべき實物・雛形等を示して其の要點を説き生徒技能の發達を助くべし。

六　實習の際家事科・圖畫科と聯絡を保ちて便宜衣服の目的服地の種類其の鑑別法、色の配合染色、洗濯等衣服に關して注意すべき事項を授くべし。

七　高等女學校に於ては土地の情況に依りてミシンの使用法を授くべし。

八　曲尺を用ふる地方に在りては殊更に鯨尺に改むることを要せず。

附錄二

文部省訓令第十三號（明治四十三年五月三十一日官報抄出）

女子師範學校教授要目

裁縫

本要目中單に衣類の名稱のみを掲ぐるものは仕上げに至るまで生徒をして實習せしめ「説明」の二字を加ふるものは必要なる事項の説明に止めて實地の仕立を省くべし又×印を附するものは土地の情況に依りて之を省くことを得。

豫備科

毎週四時

基礎的技術の練習

運針法　絲の結び方、留め方、繼ぎ方　縫ひ合せ方　躾掛け方　紮け方等

本裁襦袢
一つ身單衣
四つ身單衣
三つ身單衣
×車裁若しくは前衿裁袷
一つ身綿入

本科第一部

第一學年

毎週四時

基礎的技術の練習
運針法　絲の結び方、留め方、繼ぎ方　縫ひ合せ方　躾掛け方　絎け方等
本裁男女單衣
竝幅物にて小裁・中裁・本裁の裁ち方
積り方の練習

子供帶
本裁男女袷
本裁女綿入
綿布の繕ひ方
片面物にて三つ身の裁ち方、積り方及び中幅・大幅物にて小裁・中裁・本裁の裁ち方、積り方の説明

第二學年

毎週四時

本裁男綿入
女袴
女袴小裁・中裁の説明
竝幅・大幅物にて各種女袴の裁ち合せ方の練習
長襦袢の説明
本裁男女綿入羽織
本裁男袷羽織

小裁・中裁羽織の裁ち方、積り方、寸法の説明
片面物及び中幅・大幅物にて各種羽織の裁ち方、積り方の説明
足袋
×千代田袋　信玄袋の類
×子供腹掛

第三學年

毎週四時

絹布女單衣
フランネル單衣の仕立方の説明
絹布・毛布の繕ひ方
本裁男單羽織
被布小裁・中裁・本裁(中一枚仕上げ)
片面物及び中幅・大幅物にて各種被布の裁ち方、積り方の説明
被布合羽の説明
腹合せ帶

ミシン使用法
西洋涎掛
改良前掛
×頭巾幷に涎掛の類
小學校に於ける裁縫教授法
教授の要旨
教授材料の選擇及び排列
教授の方法
教授要具及び教授上必要なる注意

第四學年

毎週三時

シャツ　ズボン下
男袴
男袴小裁・中裁の説明
丸帶・男帶の説明

股引
小袖
小袖重ね物の説明
夜着(雛形に依る)
蒲團の説明
×蚊帳の説明

本科第二部

修業年限二箇年のもの

第一學年

本科第一部第三學年に準ず。　毎週三時

第二學年

本科第一部第四學年に準ず。

小學校に於ける裁縫教授法

本科第一部第三學年に準ず。　毎週三時

修業年限一箇年のもの

第一學年

修業年限二箇年のものゝ第二學年に準ず。　毎週二時

【注意】

一　本要目中説明に止むるもの又は特別なる練習を課するものゝ外は通常裁ち方・積り方・寸法・標附け方・縫ひ方順序を授けて仕上げしむるにあれども其の物の性質に隨ひ便宜或事項を加へ若しくは之を省くべし例へば帶に於ては裁ち方・積り方を省き袴に於ては寸法割出し方・襞取り方等

を加ふるが如し。

二　新に授くるものにて其の縫ひ方の緊要なる部分に就きては特に部分縫を課すべし例へば本科第一部第一學年の本裁男女單衣に於ける袂の丸め方、本裁袷・綿入に於ける褄縫ひ方の如し。

三　本要目中「説明」として掲げたるものは材料の性質によりては教師より説明を與ふることなく既授事項の應用として生徒に自ら考案せしむべし。

四　實習の際家事科・圖畫科と連絡を保ちて便宜衣服の目的、服地の種類、其の鑑別法、色の配合、染色、洗濯等衣服に關して注意すべき事項を授くべし。

五　材料は本科第一部第二學年迄は專ら綿布類を用ひしめ第三學年よりは適宜絹布類を併せ用ひしむべし、

六　曲尺を用ふる地方に在りては殊更に鯨尺に改むることを要せず。

附　錄　三

中等教員裁縫科檢定試驗問題

第七回（但し裁縫科檢定試驗は本回より始まる）（明治二十六年）

一　中幅縮緬長さ四丈幅一尺三寸。右の布にて女物羽織表一同被布表一の裁ち方・積り方を記せ。且つ裏に用ゐる布は何尺を要するか。

二　紐下二尺二寸五分の八布遣ひ袴を製するに布何尺を要するか。裁ち方並に縫ひ方の順序を記すべし。

實　地

一　白絹半反にて四つ身小袖半身縫ひ方。

二　金巾木綿五尺にてシャツの裁ち方及び肝要なる部分（袖口・衿等）の縫ひ方。

第八回

（明治二十七年）

一　裁縫を教授するに雛形を用ゐると實物を用ゐるとの可否。

二　幅一尺丈二丈四尺八寸二分にて八布遣ひ馬乘袴の裁ち方・積り方を記し且つ出來上り寸法を明細に記すべし。

三　幅九寸五分丈五丈八尺(兩面物)。
右の布にて十二歳・六歳の女兒袷表一枚づつ及び十歳の女兒羽織表一枚を裁ち合はさんには其の積り方如何。
但し袷には相當の腰上げを見積るべし。

實　地

一　男物單羽織半身の縫ひ方。

二　二尺幅金巾三尺にて子供洋服の極簡易なる物の縫ひ方。
但し裾掛をミシンにて縫ひ其の他は假縫のまゝ。

第九回

（明治二十八年）

一　合級生徒(たとへば尋常三四年或は高等一二年)を教授する場合にはいかなる順序・方法を以てすべきや。

二　片面物長さ二丈九尺二寸幅一尺二寸にて年齢十二歳の女兒の衣服と一つ身とを製さんとす。其の裁ち方・積り方を記すべし。
但しなるべく殘切少きをよしとす。

三　二丈九寸(幅一尺二寸)裏地一丈二寸(並幅)を用ゐ男物羽織を製す。其の裁ち方を記すべし。

實　地

一　並幅絹七尺にて四つ身綿入前の部分全體の縫ひ方。

二　金巾一尺三寸(幅二尺)にて本裁シャツの袖口一個の縫ひ方。
但しミシンを用ゐる。

第十回（裁縫科の豫備試驗は本回より始まる）　（明治二十九年）

豫備試驗問題

一　裁縫教授の際生徒の姿勢を正すに就きて注意すべき箇條を擧げよ。

二　一級四拾人の生徒に用布紬類にて男袷羽織を教授するに當り其の適當なる教授の順序方法及び之に要する時數の大略を記すべし。

三　幅一尺六寸五分總丈三丈にて本裁女羽織一枚（但し仕立上げの裄一尺六寸五分其の他の寸法通常）と中裁被布一枚（但し仕立上げの裄一尺三分其の他の寸法裄に準す）との裁ち合せ並に積り方を記すべし。又其の裏地は各何尺を要するや。

四　中幅縮緬にて女服表一並に下着の廻り（但し表）のみを裁ち合すとせば何尺の用布にて可なるか。其の裁ち方積り方を圖解すべし。

五　常幅二丈にて四歳位の女兒の洋服の裁ち方積り方を圖解すべし。

本試驗問題

一　高等女學校第一學年（尋常小學校より連續せるもの）の生徒に裁縫を教授するには如何なる順序を以てすべきか。且つ之を三學期に配當せる細目を記すべし。
但し其の教授時數は毎週四時にして第一及び第二學期は各十五週第三學期は十週にして總計百六十時とす。

二　左の事項に就きて其の教授法を明記すべし。
1、運針
2、補綴法（はぎ方、つぎ方）

三　並幅長さ一丈五尺四寸の布にて十一歳の子供の袴を仕立つるには總丈幾尺にせば可なるべきか。裁ち方及び積り方を圖解すべし。
但し衣服の着丈は二尺九寸なり。

實地

一　女單物重ね附上前身の縫ひ方。

二　小兒胸掛（西洋形）の縫ひ方
右一部分にミシン縫を施し他は假縫とす。

第十一回

（明治三十年）

豫備試驗問題

一、生徒三十人に對し二人掛りの机二十脚を用ゐるものとし絹布にて本裁男物袷を教授するに當り一齊に豫定の時間に終了せしめんとせば其の裁ち合せ標附けの際机の配置を如何すべきや。又其の教授の方法及び之に要する時間をも記すべし。

二、高等女學校三學年にて卒業するものと定め各學級につき左の事項を明記すべし。

1、教授時數。

2、教授材料品。

3、教授方法。

三、十二歳の女兒に中裁綿入表一枚。十歳の女兒に中裁羽織表一枚。

五、五歳の女兒に三つ身裁、別衽綿入表一枚。右三枚を紬縞一匹（幅九寸五分のもの）にて裁ち合すものとし其の裁ち方・積り方を圖解すべし。

四、幅一尺五寸長さ一丈三尺五寸の片面ものにて男物單羽織の裁ち方・積り方を圖解すべし。

五、片面物大幅二ヤール七分にて、シャツの裁ち方を圖解し縫ひ方の順序を明記すべし。

本試驗問題

一、高等女學校に裁縫を教授するに當り各級總べて一齊にすることの可否に就きて意見を述ぶべし。

二、本裁單馬乘袴に就きて其の裁ち方及び縫ひ方の教授方法を明記すべし。

三、長さ九尺幅一尺六寸の布あり之を以て着丈け二尺の女兒の衣服を調製せんとす其の裁ち方を圖解し且つ積り方をも記入すべし。

實地

一　比翼縫綿入袖一個の縫ひ方。

二　十二三歲の男兒のズボン下の裁縫
但しミシンを用ふ。

第十二回

（明治三十一年）

豫備試驗問題

一　修業年限四年の高等女學校に用ゐるべき裁縫教授細目を作るべし。

二　高等女學校に於て裁ち方を教授するに當り生徒をして十分了解せしめんには如何なる法に據るべきか。其の順序・方法等につき各自の考案を明記すべし。

三　幅三尺五寸長さ一丈三尺五寸の毛織類にてあづまコート（被布襟合羽の類）二枚を裁ち合さんには如何にせば可なりや。又一枚を調製するには此の幅のもの幾尺を要するや。其の總丈を記し且つ共にこれを圖解すべし。

四　幅二尺長さ一丈二寸の片面ものを用ゐると假定し中裁に相當する丈・幅を記入して其の方法を圖解すべし。

五　並幅物にて西洋婦人服を製せんとするに最も簡單なる仕立方を用ゐれば用布は凡そ何尺にて可なりや。且つ男服の袖と女服の袖とは裁ち方に如何なる點に相違ありや。各これを圖解すべし。

本試驗問題

一　單羽織の裁ち方及び縫ひ方に就きて其の教授法を詳記すべし。

二　本八丈縞四丈を以て男物表一枚下著廻り一枚分を裁ち並幅物八尺六寸を加へて其の不足の所に用ゐんとするには如何なる裁ち方によるべきや。丈・幅等を記入してこれを圖解すべし。

三　中夜具の丈仕立上り四尺八寸としてこれに適合する各箇所の寸法及び縫ひ方順序を明記し且つ表裏地の總丈綿の量をも記すべし。

實地

一　大幅九尺四寸五分の布にて女兒の袴の縫ひ方。
　但し其の形は隨意にて可なり。

二　幅六寸五分丈一尺二寸五分の布にてシャツの折り衿の縫ひ方。
　但しミシンを用ふることとす。

第十三回

（明治三十二年）

豫備試驗問題

一　普通教育に於ける裁縫教授の範圍を說明すべし。

二　一定の教材にて男物袷を教授せんとするに當り材料品は人員の半數より外なき場合に縮尺を用ゐずして此の半數の品にて教授せんには如何なる方法を用ゐるべきや。其の考案を說明すべし。

三　幅三尺四寸の毛布類十二ヤード二分にて裁ち切り丈二尺六寸五分の女袴四具を調製せんとす。其の裁ち合せ方を圖解し各部分の尺幅を記入すべし。

四　幅一尺六寸長さ三丈三寸の片面織にて大人女物表一枚及び左の寸法相當の四つ身表一枚竝に其の裾の裁ち合せ方を圖解すべし。
　身丈三尺一寸　幅七寸五分
　衽幅三寸五分餘　袖丈一尺六寸五分
　袖幅八寸五分

五　幅一尺二寸長さ二丈二尺の繭紬にて男物羽織表一枚を裁たんとす。其の方法及び各部の丈・幅を記してこれを圖解すべし。

本試驗問題

一　一尺幅の布寸反にて二十人の生徒に身丈二尺の小裁被布を教授するに當り一枚に付き裏地切一丈二尺八寸を用ゐると定め之に因りて表用布の裁ち方を圖解し且つ仕立上り寸法を明記すべし。

二　一尺二寸幅の縮緬にて胴抜無垢二枚を調製せんとす裾の丈一尺三寸

五分と定め其の裁ち方を圖解し丈・幅を記入すべし。

三　並幅片面染長さ一丈三尺一寸にて三つ身羽織を裁つに丈二尺三寸後幅六寸五分とし一個所はぎをなすとせば如何なる裁ち方を用ゐるべきか。之を圖解すべし。

實　地

一　ミシンを用ゐて洋服下著裾飾の一部分の縫ひ方。

二　白絹八尺にて比翼小袖上前の縫ひ方。

但し袖は一寸とす。

第十四回

（明治三十三年）

豫備試驗問題

一　裁縫教授の目的及び他教科目との關係を記せ。

二　裁縫の教授上衛生に關する一切の事項を記載せよ。

三　並幅三丈物の織小紋一反にて女物を裁たんとするに其の織始めより五尺一寸の處幅の端の方に凡そ五寸四方の織むらあり又織終りより二尺二寸の處幅の中央にも凡そ三寸四方のきずあり着用の上此の二箇處のきずの目立たぬやうにせんには如何なる裁ち方によるべきか。其の寸法を記入して圖解すべし。

四　並幅長さ三丈三尺の布にて筒袖の袷及び羽織を裁つに二枚とも後幅は縫ひ上り七寸にせんとす。其の裁ち方を圖解し且つ積り方の算式を記載すべし。

五　中幅縮緬一反にて女物被布の裁ち方を圖解し又其の縫ひ方順序を明細に記すべし。

本試驗問題

一　左の事項を高等女學校第一學年に教授するものとして其の教授草案を記載すべし。

本裁單衣男物裁ち方。

二　片面物大幅(一尺六寸)の布を以て女大人物無垢上着並に下着の廻り一枚を裁たんとせば其の布地何程を要するか。又裁ち方の圖及び寸法を記載すべし。

三　フランネル大幅を以て胸當及び折衿附大人物シャツを裁たんとするには如何なる裁ち方によるべきか。之を圖解すべし。

但し各部の寸法は圖中に記入すべし。

實　地

一　男帶の仕立方。

二　子供洋服上着の載縫。

三　縮緬女物右袖の仕立方。

第十五回

豫備試驗問題

(明治三十四年)

一　修業年限三箇年の高等女學校に授くべき裁縫科の教授細目を作るべし。

但し毎週の教授時數は明治三十四年三月發布の高等女學校令施行規則による。

二　裁縫教授に入用なる備品の名稱・品質及び其の構造若しくは寸法の大要を記載すべし。

三　用布本フランネルにて五六歳の子供のシャツとズボン下との裁ち方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入すべし。

四　紋縮緬中幅一匹(五丈二尺)を以て前衿裁並に四つ身着物表各一枚と四つ身被布表一枚とを裁ち合はさんとせば如何なる裁ち方によるべきか。又各部の名稱及び裁ち切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算式をも記載すべし。

五　十番馬乘袷袴の縫ひ方順序を記載し且つ襞取りの寸法を圖解すべし。

本試驗問題

一　衣類の洗濯法。

右の事項を高等女學校第三學年の生徒に教授するものとして其の教案を調製すべし。

但し洗滌用品に於ける化學作用の大要をも記載するものとす。

二　我が邦女服の得失を擧げ併せて改良の要點を記述すべし。

三　用布カシメヤ七ヤール四分にて大(大人)中(凡そ十二三歳)小(凡そ六七歳)三種の女袴の裁ち合せ方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入すべし。

四　用布中幅縮緬にて女服無垢竝に女無雙羽織の裁ち合せ方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入し且つ其の積り方の算式をも記入すべし。

但し色は二枚とも同樣模樣は無垢は裾羽織は胴裏のみに染め出すものとして各部の模樣を置くべき箇所に其の寸法を記入すべし。

實　地

一　無垢女服左半身の裁縫。

寸法普通　但し袵八分

二　男兒(四五歳)水兵形洋服上着の裁縫。

第十六回

(明治三十五年)

豫備試驗問題

一　裁縫科の普通教育に於ける價値を論せよ。

二　左の諸項を説明すべし。

1、衣服を仕立てしむる前に其の基礎の技術として授くべき事項。

2、裁縫科の教授細目を調製するに當り教材の配當に付きて注意すべき要項。

3、高等女學校の教科に手藝を加ふるときは何學年の何學科より何時間之を分割すべきか。其の最も適當なる學年・學科・時間數竝に其の理由。

三　中幅縮緬五丈を以て大人竝に子供物(七歳位)の無垢振袖を裁ち合はさんとせば如何なる裁ち方によるべきか。又各部の名稱及び裁ち切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算式をも記載すべし。

四　並幅物にて四つ身裁ち方三種以上を擧げ且つ各部の名稱・寸法をも圖中に記入すべし。

五　本比翼と附比翼との區別を述べ且つ袷本比翼の縫ひ方順序竝に下着つめかたの寸法を明細に記載すべし。

本試驗問題

一　並幅片面物三つ身裁ち方。

右の事項を高等女學校第二學年の生徒に教授するものとして其の教案を調製すべし。

二　大幅縮緬(一尺六寸)三丈一尺五寸を以て本裁女物無垢竝に四つ身羽織表各一枚を裁ち合はさんとせば如何なる裁ち方によるべきか。且つ各部の名稱・寸法を圖中に記入すべし。

三、用布フランネルにて大人シミーズ竝にズボン下(帶附)の裁ち方を圖解し又其の各部の名稱・寸法及び總尺數を明細に記載すべし。

實地

一　單本重左片袖袂丸一寸五分の仕立方。

二　四つ身比翼左半身袵一寸の裁縫。

三　子供洋服上着(一歳未滿の幼兒)の裁縫。

第十七回

（明治三十六年）

豫備試驗問題

一　左の三項を說明すべし。

1、上布・繭紬・リンネルの各原質。

2、動物性纖維と植物性纖維との最も簡單なる識別法。

但し二種

3、木綿漂白法の大略。

二　裁縫教授に最も必要なる掛圖及び標本は如何なる種類なるか。且つ其の製作法の大要を記載すべし。

三　中幅紋縮緬一匹(五丈四尺)にて綿入比翼無垢と三つ身筒袖被布の表とを裁ち合はさんとせば如何なる裁ち方によるべきか。又各部の名稱及び裁ち切り寸法を圖中に記入し且つ積り方の算法をも明記すべし。

四　脊入大夜着の裁縫に關する一切の事項を說明せよ。

本試驗問題

一　左の教材に就き教授案を調製すべし。
但し學年は隨意に選定すべし。
教材　本裁袷羽織男物標附け方　授業時間二時間

二　十布遣ひ袷袴表裏の裁ち方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入し且つ積り方の算法をも詳記すべし。
但し用布は表仙臺平裏甲斐絹とす。

三　東コート(女物)の普通仕立上り寸法及び縫ひ方順序を明記すべし。

實地

一　本裁女物單羽織の前縫。

二　打掛左前縫、袵一寸五分

三　婦人洋服上着の裁縫、

第十八回

（明治三十七年）

豫備試驗問題

一　普通教育に於ける裁縫科の教授方法を一齊的になさんとせば其の材料品の準備及び取扱ひ方は如何にして可なるべきか。

二　高等女學校若しくは女子師範學校に於て洗濯法を實習せしめんには如何なる設備を要すべきか。
但し洗濯場は圖面を製して說明すべし。

三　用布小倉袴地一反にて小裁(五歲位)竝に中裁(十歲位)の男袴の裁ち合せ方を圖解しこれに各部の名稱・寸法を記入し且つ積り方の算法を記載すべし。

四　綿入比翼の標附け方を明細に圖解しこれに各部の寸法を記入すべし。

五　中裁(八九歳)運動シャツ並にズボン下の裁ち切り寸法裁ち方の圖仕立上げの形狀及び其の寸法を詳記すべし。

本試驗問題

一　高等小學第一學年及び第二學年の二箇學年を以て編制せる複式の學級に授くべき裁縫科の教授案を調製すべし。

但し教材は適宜の程度によりて選定すべし。

二　中幅の紋縮緬にて本裁無垢並に下着廻り無垢二枚の裁ち方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入し且つ積り方の算法並に用布の總丈をも記載すべし。

實　地

一　八分袖　左褄縫ひ方。

二　三四歳兒の西洋形帽子の裁縫。

但し形狀は隨意とす。

三　折衿附シャツの裁縫。

但し袖口及び衿にミシンをかくべし。

四　女物無雙綿入羽織左半身の裁縫。

第十九回

（明治三十八年）

豫備試驗問題

一　裁縫科教授の段階は如何にこれを定むべきか。其の理由を記して說明すべし。

二　女兒の宮參りに用ふる祝着(冬期用)の調製に關する總べての事項を記載すべし。

但し地質・染色および模樣の種類をも記述するものとす。

三　本裁袷の比翼無垢を調製するに表地を中幅の紋縮緬裏地を紅絹とせんとす其の積り方用布の總丈裁ち方の圖解各部の名稱・寸法縫ひ方の順

序・方法を明記すべし。

四　二尺幅の用布にて六七歳の女兒洋服の裁ち方および仕立上りの形狀を圖解し且つ各部の名稱・寸法を記入すべし。

但しこれに要する附屬品の種類・丈・幅等をも詳記すべし。

本試驗問題

一　高等女學校第一學年の程度に於て教授すべき裁縫科の教案二時間分を作れ。

但し教材は任意に選定すべし。

二　左の諸項を説明せよ。

1、地質縮緬の絞と繻子との腹合せ帶仕立方の要點。

2、上著濱縮緬、下著白羽二重(普通の地合)の綿入重を仕立つるに就きての兩者の各部寸法の關係。

3、打掛紅表裏(二寸袵)の標附けの圖解及び其の寸法。

4、東コートの衿肩明より竪衿下りまでの縫り方の圖解及び其の寸法。

5、仙臺平袴地の織終りの方片側縦に四尺程の間に於て獨鈷織ある十番馬乘袴の裁ち方の圖および各部の寸法。

實　地

一　大人男袴腰立及び絲の掛け方。

二　大人綿入比翼上前の裁縫。袵八分

三　十二三歳男兒用服水兵形上衣の裁縫。

但しミシンは衿のみに掛く。

第二十回

(明治三十九年)

豫備試驗問題

一　我が國人が通常衣服として用ゐる毛布類につき衞生上及び經濟上に於ける利害を説き且つ其の保存上特に注意すべき心得を記せ。

二　幅一尺二寸五分長さ四丈二尺の布を以て男袷道行表一枚と女袷羽織

表一枚との裁ち合せをなさんとす其の裁ち方・積り方は如何にすべきか。圖によりて明細に說明すべし。

三　七八布遣ひの蚊帳總丈積り方算法及び其の縫ひ方順序を記載せよ。

四　五六歳男兒用水兵形洋服(一組)の裁ち方用布の總丈各部の寸法仕立上りの圖及び之に要する附屬品の種類を記載すべし。

本試驗問題

一　女子師範學校の生徒に教授すべき裁縫科の教材は如何なる目的によりて之を選定すべきか。且つ其の大要の程度を示せ。

二　幅二尺四寸の布にてホワイトシャツの裁ち方及び各部の寸法・名稱を詳記すべし。

三　祝儀に用ふる二十歳位の女子の禮服(冬期用)一切を調製せんとす。左の各項に就きて各の考案を述ぶべし。

1、各品の地質。

2、色合。

3、模樣或は柄合。

實　地

一　綿入比翼右袖袂九二寸の仕立方。

二　袷羽織男物左半身の裁縫。

三　婦人洋服の衿附及び右袖の裁縫。

第二十一回

（明治四十年）

豫備試驗問題

一　裁縫科の教授に於て節約利用の習慣を養はんには如何なる方法によるべきか。其の主なる教材竝に教授上の注意等を擧げて之を說明すべし。

二　毛布類の洗濯方及び保存方につき特に注意すべき事項を說明すべし。

三　中幅縮緬五丈六尺にて三つ身無垢本裁無雙羽織竝に四つ身被布表各

一枚の裁ち合せ方を圖解し之に各部の名稱及び其の寸法を明細に記入すべし。

四　年齢十六七歳の女子洋服上着一組(ウエースト竝にスカート)の形紙の裁ち方を記載し各部の名稱・寸法を其の圖中に記入すべし。

本試驗問題

一　高等女學校の生徒に裁縫を教授するに當り學校に於て設備すべき教授用具を詳細に記載すべし。

二　左の各項を説明すべし。

1、婦人紋附模樣置き方に就きての種別の稱呼及び紋所の位置・寸法。
但し種別の稱呼は五種以上を擧げ紋所は五つ紋とす。

2、男物袷羽織袖附七枚留の順序・方法。

3、女物三枚重下着つめかたの寸法。
但し中着は口綿とす。

4、大人太鼓胸シャツの衿肩明及び胸の繰り方の圖解竝に其の寸法。

實地

一　一寸袵褄の縫ひ方左右。

二　三つ身袷被布の裁縫。
但し袖は元祿形にて、袖口袵一分五厘として綿を含め飾紐は釋迦を附けたる梅結び一箇を添ふべし。

三　西洋前掛の裁縫。
但し其の形狀は隨意に選定すべし。ギャタ及び三つ折り縫はミシン器械附屬品を用ひて之を縫ふべし。

第二十二回

(明治四十一年)

豫備試驗問題

一　裁縫科の教材は如何にこれを選擇すべきか又その排列に關し注意すべき事項を説明すべし。

二　左の織物につきて知れる所を記せ。

天鵞絨　芭蕉布　綴錦　五泉平　アルパカ

三　用布紹にて單本重振袖を裁縫せんとすこれに關するすべての事項を明記すべし。

但し裾廻し附江戸褄模様にて地質は表着重ともに同様とす。

四　十二三歳の女兒洋服を調製するにつき左の事項を記載すべし。

1、仕立上げの圖(形狀は隨意とす)。

2、仕立上げ寸法。

3、製圖法及びその寸法。

4、用布の裁ち方總合圖並にその各部の寸法。

5、附屬品の種類及び數量。

本試驗問題

實地

一　十布遣ひ袷男袴の裁ち方。

二　一寸袱にて上前の褄縫ひ方。

三　男物袷無雙羽織左半身の裁縫。

但し袖をも附く。

四　女兒洋服の裁縫(二三歳の小兒用)。

但しミシンは袖のみにかけ他は總べて假縫とすべし。

第二十三回

（明治四十二年）

豫備試驗問題

一　裁縫科と圖畫科との關係を説きて教授上の注意に及べ。

二　高等女學校の上級生にミシンの使用法を教授せんとす如何なる順序方法によるべきか。

三　鯨二尺幅の縞セル長さ五ヤードを以て十番馬乘袴の裁ち方を圖解し

之に各部の名稱・寸法を明細に記入し且つその仕立方につきて木綿並に絹布類と異なる箇所を說き又襞取り寸法の割合を圖解によりて示せ。

四　絞縮綿(二三寸おきに四五寸大の絞りありて其の最も縮みたるところは布幅より一寸四五分程つまりたるものと假定す)と博多との腹合せ帶の仕立方につきて詳細に記述せよ。

五　年齡七八歲の女兒洋服用夏帽子を調製せんとす之に用ふる地質及び其の裁ち方・仕立方を明記すべし。

本試驗問題

一　絹布繕ひ方。

右の事項を高等女學校第二學年の生徒に敎授するものとして二時間分の敎案を調製すべし。

二　本裁綿入比翼の縫ひ方順序方法を明記すべし。

實　地

一　地質仙臺平にて男袴の腰立方。

二　表地縮綿裏地甲斐絹にて女物袷羽織の仕立方。

但し左半身。

三　キャラコ二ヤール三分にてホワイトシャツの仕立方。

第二十四回

（明治四十三年）

豫備試驗問題

一　裁縫敎室の構造上普通敎室と異なれる諸點を示せ。

二　左の二項を說明すべし。

1、振袖打掛の普通仕立上げ寸法。

2、地質厚き丸帶の仕立方。

三　道行形女物半コート(春秋用)の調製に關する一切の事項を明記すべし。

四　幅二尺物にて年齡七八歲の男子用背廣上衣の裁ち方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入し且つ縫ひ方の順序をも記述せよ。

本試驗問題

一　本裁シャツの裁ち方。
右の教材を高等女學校第四學年の生徒に教授するものとして二時間分の教授案を調製すべし。

二　用布フランネルを用ひて年齡十四五歳の男子用股引仕立ズボン下の裁ち方を圖解し之に各部の名稱・寸法を記入すべし。

三　男女袴各部寸法の割出し方を明記すべし。

實地

一　被布飾紐の結び方　五種。
但し種類は隨意とす。

二　毛布繕ひ方　二種。

三　四つ身綿入左半身の仕立方。

四　三四歳兒の帽子仕立方。

五　東コート小衿の作り方及び附け方。

第二十五回

（明治四十四年）

豫備試驗問題

一　女子師範學校の二部生（二箇年修業のもの）に教授すべき裁縫科の教授細目を調製すべし。

二　衣服を調製するに當り衞生上特に注意すべき諸點を述べよ。

三　中夜着を仕立つるに當り左の事項を明記すべし。
1、表裏用布の總丈・綿の分量。
2、裁ち方の圖裁ち切り寸法。
3、仕立上げ寸法。
4、縫ひ方の順序及び方法。

四　年齡八九歳の女兒洋服（水兵形）の割出し方を詳細に記述すべし。

本試驗問題

一　左の諸項につきて教授の順序方法を述ぶべし。

1、運針。
2、衣服の部分縫。
3、衣服の縫ひ方。
4、衣服の裁ち方。

二　左の各項に就きて詳細に說明すべし。

1、博多男帶の仕立方。
2、被布小衿の仕立方及び其の附け方の種類方法。
3、四つ身元祿袖形の割出し(以上は圖解をも要す)。
4、同地質の用布にて男物綿入二枚重の下着寸法の詰め方。
5、六七歲の女兒用ケープの地質の種類(表裏共)及び其の用布の幅丈。

實地

一　本裁袷比翼の左袖縫ひ方。

仕立上げ寸法。

袂丸み五分其の他は普通。

二　本裁袷比翼の左前身頃の裁縫。

仕立上げ寸法。

一、身丈　凡そ三尺　一、衽下り　四寸五分
一、衿下　一尺三寸　一、合褄幅　三寸八分
一、袵　五分　一、袖附　五分
其の他は普通

三　五六歲用半ズボンの仕立方。

但し左の箇所にミシンを掛け其の他は假縫とす。

1、左右前の合せ目(持出し・見返し等)。
2、帶の上。
3、ビヂヤウ紐。

附錄四

中等教員手藝科檢定試驗問題

第二十二回（但し手藝科檢定試驗は本回より始まる）（明治四十一年）

豫備試驗問題

編物

一　木綿絲は如何なる編物を作るに適するか。

二　五本編棒は如何なる編み方に用ふべきや。

三　藤編の順序方法を明記すべし。

組絲

一　十六打臺の使用法を記すべし。

二　子供用羽織紐に用ふる絲の種類を問ふ。

三　千鳥の打ち方及び寄せ掛けを明細に記すべし。

嚢物

一　嚢物の教授に必要なる器具の名稱を列記すべし。

二　信玄袋の仕立方に就き左記の事項を明記すべし、

1、寸法割出し方。
2、表裏用布の地質。
3、仕立方順序。
4、紐の寸法。

三　婦人持紙入(一つ襠)形紙の裁ち方を圖解し且つ縫ひ方の順序方法を記すべし。

但し形紙の寸法は圖中に記入するものとす。

刺繍

一　すがぬひを教授するに就きての要項を擧ぐべし。

二　ハンカチーフに刺繍を施さんとするに就き左の諸點を明記すべし。

1、形紙及び圖樣の圖解。
2、刺繍の種類・方法。
3、用布並に用絲の種類・色合。

造花

一　梅花の蕚及び花の作り方を記すべし。

二　絹・絨・天鵞絨・寒冷紗は如何なる花を造るに適するか其の使用法を明記すべし。

三　寒冷紗を用ひて葉染を爲すには如何なる順序・方法を以てすべきや。

本試驗問題

編物

一　二歳位の大黑帽子。

二　靴下の踵の繕ひ。

組絲

（第二十二回には組絲本試驗の受驗者なし）。

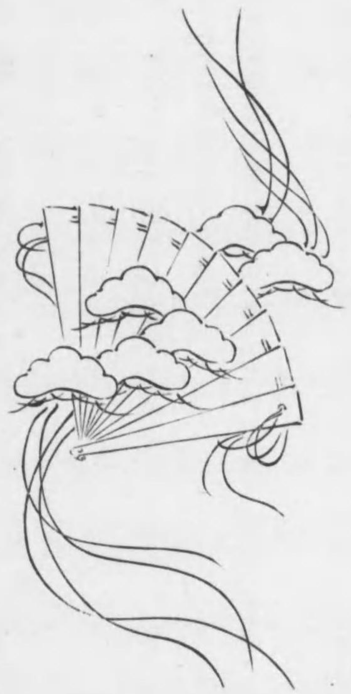
嚢物

一　深口附四つ襠紙入の仕立方。

但し婦人用。

刺繍

一　左に示す半衿圖案により次ぎの繍方を應用して刺繍すべし。



但し年齢十六七歳用のものとす。

平ぬひ　菅ぬひ　絞ぬひ　まつりぬひ

造花

一　鴇色のコスモスの開と半開及び葉三枚を作り一枝に纏めよ。

二　寒菊の葉三枚を着色せよ。

三　紫木蓮の蘂を作り並に花瓣表裏に着色し一瓣となし鍛當をなせよ。

第二十三回

（明治四十二年）

豫備試驗問題

編物

一　レース絲は如何なる編み方に適するか。

二　鍵針編物の利害に就きて記せ。

三　中細絲にて製したる子供(十歳位)用シャツに就きて袖衿肩の目數の減じ方衿・丈の寸法を圖解し又之に要せし絲の目方を示せ。

組　絲

一　普通組絲に用ふる器具を列擧すべし。

二　二種の色絲を用ひて良打一つ結女子用羽織紐を製するに要する絲の長さを示し併せて絲の置き方を圖解すべし。

嚢　物

一　男子持叺形煙草入並に煙管入の寸法・裁ち方及び仕立方を詳述すべし。

二　ハコセコ型紙の寸法・裁ち方及び各部の名稱を明記すべし。但し寸法は圖中に記入するものとす。

刺　繍

一　主要なる刺繍法の各に就きて利害を示せ。

二　夏物半衿の圖案を作り用絲の種類・色合・刺繍の種類を記入せよ。

造　花

一　寒冷紗にてペコニアの葉を造るには如何なる方法を用ひ又之に光澤を附するには如何にすべきや詳記すべし。

二　紙にて造りたる菖蒲の花瓣に着色し且つ花を組み立つる方法を記載せよ。

三　鹿子百合の蕊の造り方を明記すべし。

本試驗問題

編　物

一　帽子編によりて日本形涎掛の模樣物を製すべし。

二　各自の意匠に從ひて銀貨入を造らしむ。

組　絲

一　藤打にて男子用一つ卷羽織紐一組を作らしむ。

二　龜甲打にて女子用時計紐を作らしむ。

嚢　物

一　男子持二つ折小被せつき紙入を調製すべし。
　但し襠入

刺繍

一　各種の繡法を適宜に選用してクッションの片側(表面)に菊の模様を繡出すべし。

但し下繪及び材料を與ふ。

造花

一　白茶色の丸薔薇に就きて開(徑三寸五分)半開蕾各一輪並に若干の葉を造りて適宜に一枝に纏めよ。

二　著色を異にする紅葉七枚を造り之を一小枝に纏めよ。

第二十四回

（明治四十三年）

豫備試驗問題

編物

一　毛質の古絲(一度用ひたる絲をいふ)に就きてクセを直す方法につきて詳記すべし。

二　玉針(シャッ針ともいふ)二本を用ひて編製し得べき平編物の種類を列記すべし。

三　八つの目數にて木葉形を編み上ぐる順序を記すべし。

組絲

一　組絲に專用せらるゝ絲ありや其の特性を記述すべし。

二　八つ折臺の寸法を明細に記すべし。

三　十六玉引下げにて矢羽根打の組み方を圖解すべし。

嚢物

一　オランダ木綿(二尺二寸五分幅)四尺二寸を表用布として底中折れ四季袋を調製せんとす各部寸法の割出し方及び仕立方を明記すべし。

二　深口附子持襠婦人紙入の仕立方に就きて左の事項を記述すべし。

1、表裏用布の寸法。

2、型紙裁ち方及び各部の寸法。

但し圖解

3、仕立方の順序方法。

刺繍

一　カマ絲の性質を說き併せて此の絲をスガ繍・ヒラ繍・サガラ繍の各〻に適用する際の捌き方に就きて記せ。

二　肉入繍とは如何なる繍方なりや又如何なるものに適用するを可となすや。

造花

一　南天の實及び芽・葉の造り方を詳記すべし。

二　五月頃に造るべき七種の盛花に就きて取合せ方を詳しく述べよ。

本試驗問題

編物

一　子供(二歲位)用笹編飾附垂帽子を作らしむ。

組絲

一　女子用羽織紐を打たしむ。

但し組形膝折結　打方縮緬打　壺際小櫻打　足し總

嚢物

一　見本を與へて琴の爪入を仕立てしむ。

刺繍

一　白絞羽二重の切地を與へ之に刺繍を加へて羽織裏に仕上げしむ。
但し女物とす。年齢に制限を置かず。

造花

一　赤色ダリヤに就きて開花・半開・蕾各一輪を造り之に葉五枚を添へて一枝に仕上げしむ。

第二十五回

豫備試驗問題

編物

一　アイスウール絲は如何なる種類の編物に用ふべきや。

（明治四十四年）

二　毛絲製普通女子用手袋につきて掛目・割り方・寸法を詳記すべし。

組絲

一　二十四玉源氏打に就きて寄りかけ及び組み方を明細に記すべし。

二　寄返し總を作るに用ふべき木製三本揃の寸法並に使用法を記すべし。

嚢物

一　重掛袱紗大中小の三種につき仕立上げ寸法及び縫ひ方方法を述ぶべし。

二　婦人持小被せ附四つ襠紙入に要する表裏用布の總丈及び型紙の裁ち方を記載すべし。
但し襠は子持襠及びソグ襠(前下り)の二種を用ひ各部の名稱・寸法は裁ち方の圖中に記入するものとす。

刺繍

一　家庭に於ける刺繍の効用をして最も適切ならしむる爲には如何なる點に注意すべきや。

二　緋の鹽瀨を使ひてハコセコ(十四五歳の女子用)を作るに當り水の模樣を繡出せんとす由つて模樣の圖案を製し之に適應すべき刺繡の種類並に用絲の種類・色合・細太を明記せんことを望む。

造　花

一　フクシヤの花を造る方法を記し特に注意すべき點を詳にせよ。

二　造花の趣味を會得せしむる手段に就きて大要を述べよ。

本試驗問題

編　物

一　子供(四歳位)用シャツの片袖を作らしむ。
但し脈止めに梅花形を編み出すこと。

組　絲

一　松葉形帶留。
打ち方　中は八つの角打兩端は老松打總は並總

囊　物

一　見本を示し切地を與へて子供用箱迫を作らしむ。

刺　繡

一　友禪染縮緬の布片を與へ適宜刺繡を加へて鯨帶地に製せしむ。
1、繡ひ方の種類・色絲の使ひ方等を記して考案の梗概を示すこと。
2、右の考案に從ひて刺繡を實行すること。

造　花

一　牡丹色の牡丹の開花一輪に葉九枚を添へて一枝に纏めよ。

附錄　終

明治四十五年二月十三日印刷
明治四十五年二月十七日發行

（三訂錢縫教授法）
（定價金六拾錢）

著作者　今村順子
舊姓谷田部

發行者　目黑甚七
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

發行兼印刷者　河出靜一
東京市日本橋區通三丁目十番地

印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

不複製許

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
（電話京橋二一六三番）
目黑書店

東京市日本橋區通三丁目
（電話本局二七七七番）
成美堂書店

終